

昭和 4 5 年度

# 地力保全基本調査成績書

[阿寒地域 阿寒町]

北海道立中央農業試験場

25

## 序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によって十分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず、一方では剝脱要因もあってその地力は消耗低下しつつある。従ってこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もって当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和45年度に行なつた11地域23市町村をとりまとめたもので、ここにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和46年3月

北海道立中央農業試験場

場長 和田 忠 雄

## 調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になっている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取りまとめに当っては、夫々下記の資料に基づいた。

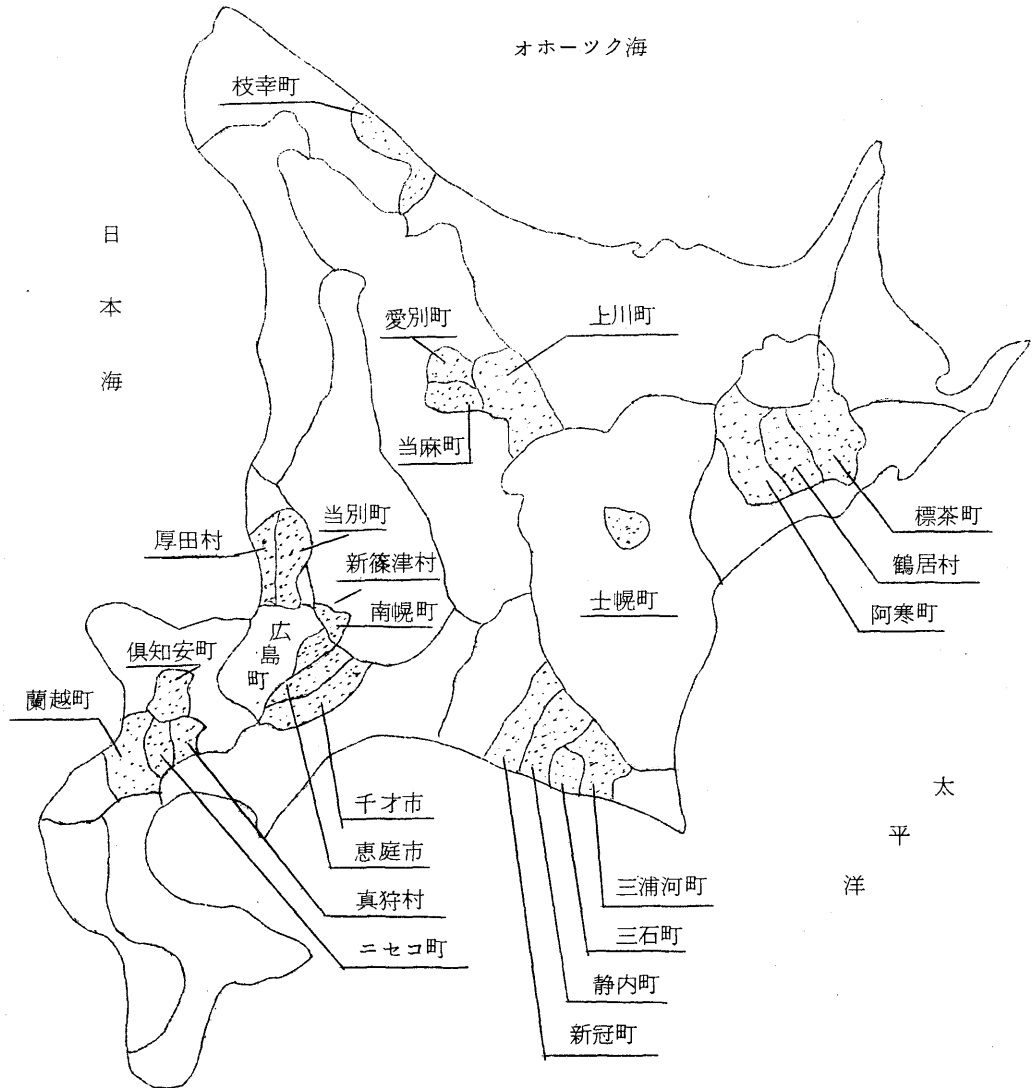
1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によった。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壌統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部第3課）による。
3. 土壌統および土壌区の設定に当っては、北海道農業試験場農芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

化学部	部長	森	哲郎
土壌改良科	科長	後藤	計二
	第1係長	小林	荘司
	研究職員	水元	秀彰
	"	伊藤	輝行
	"	木村	清
	"	松原	一実
	第2係長	山口	正栄
	研究職員	小林	茂
	"	宮脇	忠
	"	山本	晴雄
	"	高橋	市十郎
	"	上坂	晶司
	十勝農試	菊地	晃二
	"	関谷	長昭
	"	横井	義雄
	北見農試	秋山	喜三郎
	上川農試	野崎	輝義
	"	土居	晃郎
	天北農試	奥村	純一

# 1. 調査地域一覽

調査地域名	該当市町村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積 (ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
石狩川下流	当別町	4,969	4,748	—	—	4,969	4,748
	新篠津村	3,831	1,017	—	—	3,831	1,017
石狩北部沿海	厚田村	617	1,605	—	—	617	1,605
石狩川下流	南幌町	4,688	1,030	—	—	4,688	1,030
羊蹄山麓	倶知安町	1,263	3,153	—	—	1,263	3,153
	真狩村	276	3,788	—	1,700	276	2,088
	ニセコ町	563	3,537	—	2,900	0	637
ニセコ山麓	蘭越町	2,188	2,104	—	—	2,188	2,104
日高沿海	新冠町	676	5,282	—	—	676	5,282
	静内町	948	3,353	—	—	948	3,353
	浦河町	730	2,917	—	—	730	2,917
	三石町	1,188	1,245	—	—	1,188	1,245
阿寒	阿寒町	20	2,897	—	—	20	2,897
	鶴居村	0	2,223	—	—	0	2,223
石狩南部	千歳市	939	3,465	—	—	939	3,465
	恵庭市	3,161	2,413	—	—	3,161	2,413
	広島町	1,018	2,063	—	—	1,018	2,063
上川中部	上川町	851	665	—	—	851	665
	愛別町	1,803	669	—	—	1,803	669
	当麻町	4,071	863	—	—	4,071	863
枝幸・雄武	枝幸町	0	2,558	—	—	0	2,558
弟子屈	標茶町	0	10,150	—	—	0	10,150
上士幌	士幌町	13	11,680	—	1,500	13	10,180
合	計	33,813	73,425		6,100	33,250	67,325

調査地区位置図



# 阿 寒 地 域

## 阿 寒 町

### 1. 地域の概況

#### 1) 位置および調査面積

(1) 位 置 北海道阿寒郡阿寒町

(2) 調査面積 (ha)

郡市町村名	農 地 総 面 積				調 査 対 象 面 積				過 年 度 調 査 面 積			
	水 田	普 通 地	樹 園 地	計	水 田	普 通 地	樹 園 地	計	水 田	普 通 地	樹 園 地	計
阿寒郡阿寒町	20	2,897	0	2,917	20	2,897	0	2,917	0	0	0	0

郡市町村名	本 年 度 調 査 面 積				次 年 度 調 査 面 積				備 考
	水 田	普 通 地	樹 園 地	計	水 田	普 通 地	樹 園 地	計	
阿寒郡阿寒町	20	2,897	0	2,917	0	0	0	0	完了

#### 2) 気 候

本地域は北海道東部に位置しているが、冷温と云われる釧路地方のなかでは割合よい気候で年平均気温は南へ下るほど暖かい。また東北海道特有の濃霧は南部の丘陵地帯でさえぎられ、その影響はほとんど見られない。しかし、冬期間は一般に降雪が少なく、そのため土壌凍結が甚しく時には牧草根が切断される等の被害を与えることもある。

次に最寄の気象観測値として飽別観測所のデータをあげる。

#### 飽別観測所

項 目	月 別												全 年	統 計 年 数	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
気 温 (°C)	平 均	- 9.1	- 8.0	- 3.1	4.2	9.3	13.0	17.5	19.1	15.1	8.9	1.5	-4.2	5.4	10年
	最高平均	- 2.1	- 0.7	3.1	10.8	16.4	18.7	22.5	24.0	20.7	15.2	7.4	1.8	11.5	"
	最低平均	-16.0	-15.3	- 9.2	- 2.5	2.1	7.2	12.4	14.2	9.4	2.6	-4.5	-10.1	-0.8	"
月 降 水 量 (mm)	49	43	73	94	101	115	133	161	194	155	86	53	1257	"	
日 最 大 降 水 量 (mm)	49	44	120	89	75	80	100	87	167	102	71	65	167	20年	
最 深 積 雪 (cm)	84	82	135	75	-	-	-	-	-	-	40	67	135	"	
霧 日 数 (日) ※	2.7	3.4	5.1	8.8	12.6	16.8	18.6	19.1	13.0	9.9	3.7	2.7	11.64	30年	
日 照 時 間 (時) ※	179.2	181.0	205.5	197.5	178.8	139.8	125.0	136.0	155.6	188.3	175.0	173.2	2035.1	"	

初 霜 9月30日 終 霜 5月19日

(※ 釧路気象台)

初 雪 11月4日 終 雪 5月1日

### 3) 土 壤 条 件

#### (1) 地 形

本地域は耕地地形として三つに大別することができる。

##### i) 太平洋に流入する河川沿いに発達した沖積地帯。

阿寒湖に源を発する阿寒川ならびに舌辛川、仁々志別川などの各河川に沿って形成された沖積地帯で、本町農耕地の約半分を占めている。

##### ii) 標高20～200mの丘陵および段丘地帯

主として雌阿寒岳、雄阿寒岳、摩周岳、旭岳などの火山灰が累積した軽しような腐植質火山性土壌よりなる丘陵および段丘地帯。

##### iii) 南部に分布する平坦な低湿地地帯

通称釧路原野と称され仁々志別川などの流域に沿って形成された低位泥炭地帯で、大部分は地下水位が高くそのため耕地として利用されていないが、近年パイロット事業などにより開発が進められている。

#### (2) 地 質

本地域は地質的に阿寒、屈斜路カルデラ郡形成時の噴出物、主に軽石、火山灰、あるいは熔結凝灰岩などの火山噴出物を基盤とし、その上を雌阿寒岳、雄阿寒岳、摩周岳、旭岳などを噴出源とする火山灰が累積した腐植質火山性土壌よりなる丘陵、段丘地帯と阿寒川、舌辛川、仁々志別川などの河川沿いに形成された沖積地帯、泥炭地帯と大きく二つに分けることができる。

なお、本町管内の火山噴出物の種類、分布、命名については一応四種類の新期火山灰の累積であることが判明したが、その噴出源等については分後釧路管内の調査が進みしだい判明できると思われるが、本報告では上よりの旭岳層(A s)、雌阿寒の1 a、2 a層(Me-1 a, 2 a層)、雌阿寒のb層(Me-b層)、摩周のf層?(M-f層?)として一応報告するが、今後この名称については変更がありうる。

#### (3) 侵 蝕 状 況

本地域の表土層の大部分は軽しような腐植質火山性土壌であるが、栽培作物が牧草類のため水蝕、風蝕いずれもあまりみられない。

#### (4) 交 通 状 況

本地域の中央部に国道240号線大楽毛～阿寒湖線が通っており、また町道もおおむね砂利敷が十分で交通便は左程不便ではない。

### 4) 土地利用及び営農状況

#### a) 経営面積(1戸当平均ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	牧草地
11.7	0	1.2	0	10.5

(昭和43年度)

b) 経営規模別農家数 (戸)

農家数	0.1 ha～ 0.99 ha	1.0 ha～ 2.99 ha	3.0 ha～ 4.99 ha	5.0 ha～ 9.99 ha	10.0 ha～ 19.99 ha	20.0 ha以上
433	80	122	88	104	37	2

(昭和43年度)

c) 主要農作物作付面積 (ha)

牧草類	てん菜	青刈デントコーン	馬鈴薯	いんげん	えん麦	大豆	大根
1,152	109	96	82	79	73	44	30

(昭和42年度)

d) 家畜の種類及び頭数

項目 \ 種類	乳牛	役肉	馬	豚	めん羊	鶏
飼育戸数	250	151	281	32	18	180
飼育頭数	2,192	504	467	152	35	10,622
一戸当飼育頭数	8.8	3.3	1.7	4.7	1.9	59.0

(昭和42年度)

e) 施肥標準および目標収量 (Kg/10a)

作物 \ 要素	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	堆肥	収量	備考
牧草(基肥)	4.0	1.00	1.20	2,000	4,000	既墾地
牧草(追肥)	6.0	6.0	1.40	2,000	4,000	2年目以降採草地
えん麦	3.5	6.0	4.5	1,000	200	
てん菜	10.0	18.0	10.0	2,500	3,000	
馬鈴薯	8.0	10.0	9.0	2,000	2,500	
大豆	1.3	1.20	5.0	1,000	180	

昭和42年  
北海道施  
肥標準  
(農務部)

本町は釧路支庁管内のほぼ中央に位置し、乳牛を主体とする主畜経営が営まれており、一般に耕地面積が広く北海道酪農の代表的地帯で年々乳牛の飼育頭数も増加している。また釧路という大消費地をひかえ野菜類の生産も多く、今後ますます需要が増加すると思われる。

また、最近に至り農業近代化政策に伴い、大規模草地造成や国営、道営により開拓パイロット事業等が実施され成果を上げている。

2. 土壌類型区分及び説明

1) 土壌統一覧及び土壌区一覧



## (1) 土壤統一覽

(畑)

土壤統名	色層序	腐植層序	礫層・砂礫層を混在する砂層	酸化沈積物	土性		母材	堆積様式
					表土	次層		
共和	YR/YR	表層多腐植層	あり	なし	壤質	粘質	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩(凝灰質)	風積(火山性) 洪積
仁々志別	YR/YR	"	なし	"	"	壤質	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩(凝灰質)	風積(火山性) 洪積
下徹別	YR/YR	"	あり	"	"	"	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩	風積(火山性) 洪積
紀ノ丘	YR/YR	"	なし	"	"	"	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩(凝灰質)	風積(火山性) 洪積
阿寒	YR/YR	表層多腐植層	"	"	"	"	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩(凝灰質)	風積(火山性) 洪積
西徹別	YR/YR	表層多腐植層	"	あり	"	"	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩(凝灰質)	風積(火山性) 洪積
大正	YR/YR	"	"	なし	"	"	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩(凝灰質)	風積(火山性) 洪積
西阿寒	YR/YR	表層多腐植層	"	"	"	"	非固結火成岩(火山灰) 固結火成岩(安山岩)	風積(火山性) 崩積
上徹別	YR/YR	表層多腐植層	あり	"	"	"	非固結火成岩(火山灰) 非固結水成岩(砂)	風積(火山性) 水積(河成)
中徹別	YR/YR	表層多腐植層	なし	"	"	粘質	非固結火成岩(火山灰) 非固結水成岩(砂)	風積(火山性) 水積(河成)
下布伏内	YR/YR	表層腐植層なし	あり	"	"	砂質	非固結水成岩(泥) 非固結水成岩(礫)	水積(河成) 水積(河成)
中阿寒	YR/YR	"	なし	"	粘質	壤質	非固結水成岩(泥) 非固結水成岩(砂)	水積(河成) 水積(河成)
下舌辛	YR/YR	"	"	あり	壤質	"	非固結水成岩(泥) 非固結水成岩(泥)	水積(河成) 水積(河成)
上舌辛	YR/YR	"	"	"	粘質	粘質	非固結水成岩(泥) 非固結水成岩(泥)	水積(河成) 水積(河成)
徹別	YR/YR	全層多腐植層	"	なし	※泥炭	壤質	低位泥炭(ヨシ・ハンノキ) 非固結火成岩(火山灰)	集積(ヨシ・ハンノキ) 風積(火山性)
東舌辛	YR/YR	"	"	"	粘質	"	非固結火成岩(火山灰) 低位泥炭(ヨシ)	風積(火山性) 集積(ヨシ)

## (2) 土壤区一覽

(畑)

土 壤 区 名	簡略分級式	面 積 (ha)	備 考
共 和 - 共 和	ll f n s	200	
仁々志別 - 仁々志別	ll t f s	300	
下 徹 別 - 下 徹 別	ll t d f s	130	
紀ノ丘 - 紀ノ丘	ll t ll f n s	90	
阿 寒 - 阿 寒	ll f n ll s	100	
西 徹 別 - 西 徹 別	ll t f n s	220	
大 正 - 大 正	ll n ll t f s	250	
西 阿 寒 - 西 阿 寒	ll f n ll t g s	5	
上 徹 別 - 上 徹 別	ll f n i s	50	
中 徹 別 - 中 徹 別	ll f n a	520	
下布伏内 - 下布伏内	ll t d(w) n a	10	
中 阿 寒 - 中 阿 寒	ll a	725	
下 舌 辛 - 下 舌 辛	ll w n a	280	
上 舌 辛 - 上 舌 辛	ll w ll n	1	
徹 別 - 徹 別	ll w n ll t f a	15	
東 舌 辛 - 東 舌 辛	ll w ll m a ll f	1	大部分未開墾地

## 2) 土壤統別説明

畑

## 共 和 統

## (1) 土壤統の概要

## A 土壤統の特徴

## A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量9~11%、土性はs i Lである。色は10 YRで明度、彩度ともに1~3である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度18~20で疎~中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.2前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1 a, 2層。

第2層は厚さ5~10cmで腐植含量18~20%、土性はCLである。色は10 YRで明度1~3、彩度1~2である。礫なし。発達弱度の粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度15~17で疎。PH (H<sub>2</sub>O) 5.1前後。下層との境界平坦判然である。Me-b層。

第3層は厚さ5~10cmで腐植含量12~14%、土性はLである。色は10 YRで明度、彩度ともに1~3である。礫なし。発達弱度の粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度12~14で疎。PH (H<sub>2</sub>O) 5.4前後。下層との境界平坦判然である。Me-b層。

第4層は厚さ5~10cmで腐植含量7~9%、土性はS<sub>i</sub>Lである。色は10YRで明度、彩度ともに5~7である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度11~13で疎。PH(H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第5層は厚さ5~10cmで腐植含量18~20%、土性はS<sub>i</sub>Lである。色は10YRで明度1.7~2、彩度1~2である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度13~15で疎。PH(H<sub>2</sub>O) 5.2前後。下層との境界平坦判然である。M-f層?。

第6層は厚さ5~10cmで腐植含量7~9%、土性はSLである。色は10YRで明度2~4、彩度3~5である。0.2~0.5cmの浮石あり程度。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度15~17で疎。PH(H<sub>2</sub>O) 5.0前後。下層との境界平坦判然である。M-f層?。

第7層は厚さ10~15cmで腐植を欠く、土性はSLである。色は10YRで明度4~6、彩度5~7である。0.2~1.0cmの浮石含む。発達中度の塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度14~16で疎。PH(H<sub>2</sub>O) 5.0前後。下層との境界平坦判然である。M-f層?。

第8層は66cm以下で腐植を欠く、土性はSLである。色は10YRで明度4~6、彩度7~8である。0.2~1.0cmの浮石に頗る富む。発達弱度の粒状構造。孔隙細孔富む。小孔あり。ち密度17~19で疎~中。PH(H<sub>2</sub>O) 4.9前後。ローム層。

### 代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町共和 (試坑76)

第1層	0~ 15cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/2)のS <sub>i</sub> L。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔あり。ち密度19で中。PH(H <sub>2</sub> O) 5.2。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第2層	15~ 21cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/1)のCL。礫なし。発達弱度の粒状構造。細孔あり。ち密度16で疎。PH(H <sub>2</sub> O) 5.1。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-b層。
第3層	21~ 27cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/2)のL。礫なし。発達弱度の粒状構造。細孔含む。ち密度13で疎。PH(H <sub>2</sub> O) 5.4。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-b層。
第4層	27~ 35cm	腐植に富む、黄褐(10YR 6/6)のS <sub>i</sub> L。礫なし。発達弱度の弱塊状構造。細孔含む。ち密度12で疎。PH(H <sub>2</sub> O) 5.5。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。Me-b層。
第5層	35~ 44cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 1.7/1)のS <sub>i</sub> L。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度14で疎。PH(H <sub>2</sub> O) 5.2。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。M-f層?。
第6層	44~ 52cm	腐植に富む、黄褐(10YR 3/4)のSL。0.2~0.5cmの浮石あり。発達弱度の塊状構造。細孔富む。ち密度16で疎。PH(H <sub>2</sub> O) 5.0。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。M-f層?。
第7層	52~ 66cm	腐植を欠く、黄褐(10YR 5/6)のSL。0.2~1.0cmの浮石含む。発達中度の塊状構造。細孔富む。ち密度15で疎。PH(H <sub>2</sub> O) 5.0。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。M-f層?。
第8層	66cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR 5/8)のSL。0.2~1.0cmの浮石に頗る富む。発達弱度の粒状構造。細孔富む、小孔あり。ち密度18で疎。PH(H <sub>2</sub> O) 4.9。調査時の湿り半乾。ローム層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒形組成%				土性	現地容積 重g	真比 重	全炭 素%	全窒 素%	炭素 率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0 ~ 15	42		3.2	41.9	46.0	8.9	Si L			632	0.51	1.2	10.9
2	15 ~ 21	7.6		7.6	35.3	38.6	18.5	C L			1100	0.75	1.5	18.9
3	21 ~ 27	7.6		5.0	42.6	43.1	9.3	L			774	0.49	1.5	13.3
4	27 ~ 35	7.3		2.8	43.2	48.3	5.7	Si L			482	0.34	1.4	8.3
5	35 ~ 44	10.1		10.3	32.6	45.2	11.1	Si L			1147	0.76	1.5	19.7
6	44 ~ 52	11.8		18.3	47.3	28.6	5.9	S L			485	0.38	1.3	8.4
7	52 ~ 66	9.4		23.1	54.0	22.2	0.7	S L			—	—	—	—
8	66 ~	5.5		39.7	40.4	17.8	2.1	S L			—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.2	4.5	1.3	23.0	8.5	2.0	0.5	37.0	7.78	2.4
2	5.1	4.4	1.3	42.2	9.7	3.1	0.4	23.0	2.148	0.5
3	5.4	4.6	1.3	31.4	6.3	1.2	0.3	20.1	2.122	0.5
4	5.5	4.5	1.3	22.7	4.6	1.0	0.2	20.3	1.838	0.5
5	5.2	4.4	2.5	61.6	11.5	2.8	0.4	18.7	2.404	0.4
6	5.0	4.4	1.3	27.2	3.7	1.7	0.3	13.4	2.342	0.2
7	5.0	4.8	1.3	19.9	4.0	0.2	0.2	20.1	2.246	0.4
8	4.9	5.0	0.6	10.6	1.9	0.0	0.2	17.9	1.706	0.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては仁々志別統、下徹別統、紀ノ丘統、阿寒統とがあるが、仁々志別統とは礫の有無、下徹別統とは母材、紀ノ丘統とは礫の有無、阿寒統とは腐植層序、礫の有無が異り、それぞれ本統とは区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積

B 地形 緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.4℃ 年降水量 1,257mm

D 植生及び利用状況 牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項 石灰、熔燐を増施し反応の矯正をはかること。

F 分布 北海道阿寒郡阿寒町共和、上仁々志別、元仁々志別、中仁々志別、下仁々志別、東栄、共進

調査及び記載責任者 後藤 計二 （北海道立中央農業試験場）

上坂 晶司

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
共和一共和	llfns

② 土壤区別説明

共和統一共和区

示性分級式 (畑)

土壤生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の粘着性	耕起の難しさ	(表土の風乾の硬さ)	(表土の粘着性)	透水性	保水度	自然肥力	保肥力	固定力	土層の塩基状態	養分	置換性	苦土	加里	磷酸	微量要素	酸害	物理的障害	有害物質の有無	増冠水の危険度	地すべりの危険度	傾斜	自然傾斜	人為傾斜	侵蝕	耐水性	耐風蝕性							
t	d	g	p		w			f				n							i		a		s				e									
ll	l	l	l	l	1	1	(2)	l	l	l	l	ll	2	2	3	ll	2	1	1	2	1	2	l	1	1	l	1	1	ll	2	-	-	l	1	1	2
簡略分級式		llfns																																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は共和統に属する。表土の厚さは25cm内外で厚い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質のため耕起、砕土は容易である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は中。作土の養分状態は石灰中、苦土多、加里中、磷酸中、酸度中で養分の豊否中である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況 牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点 石灰、熔磷などの土壤改良資材の増施。

D 分布 北海道阿寒郡阿寒町共和、上仁々志別、元仁々志別、中仁々志別、下仁々志別、東栄、共進

記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日



(1) 土壤統の概要

## A 土壌統の特徴

### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量11～13%、土性はSiLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。発達弱度の粒状構造及び中度の細粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度13～15で疎。PH(H<sub>2</sub>O) 5.2前後。下層との境界波状明瞭である。Me-1a, 2a層。

第2層は厚さ5～10cmで腐植含量12～14%、土性はSiLである。色は10YPで明度1～3、彩度1～2である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度20～22で中。PH(H<sub>2</sub>O) 5.1前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第3層は厚さ5～10cmで腐植含量7～9%、土性はLである。色は10YRで明度4～6、彩度3～5である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度16～18で疎。PH(H<sub>2</sub>O) 4.9前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第4層は厚さ10～15cmで腐植含量9～11%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに2～4である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔富む、小孔あり。ち密度17～19で疎～中。PH(H<sub>2</sub>O) 4.9前後。下層との境界平坦判然である。M-f層?。

第5層は厚さ15～20cmで腐植含量6～8%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに3～5である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度17～19で疎～中。pH(H<sub>2</sub>O) 5.1前後。下層との境界平坦判然である。M-f層?。

第6層は厚さ15～20cmで腐植を欠く、土性はSである、(触感ではSL)。色は10YRで明度5～7、彩度7～8である。礫なし。発達中度の塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度19～20で中。pH(H<sub>2</sub>O) 5.4前後。下層との境界平坦漸変である。M-f層?。

第7層は75cm以下で腐植を欠く、土性はSLである。色は10YRで明度4～6、彩度7～8である。礫なし。発達中度の塊状構造。孔隙細孔富む、小孔あり。ち密度22～24で中。pH(H<sub>2</sub>O) 5.0前後。ローム層。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町上仁々志別(試坑87)

第1層	0~ 18cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のSiL。礫なし。発達弱度の粒状及び中度の細粒状構造。細孔あり。ち密度1.4で疎。pH(H <sub>2</sub> O)5.2。調査時の湿り乾。層界波状明瞭。Me-1a, 2a層。
第2層	18~ 24cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/1)のSiL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔あり。ち密度2.1で中。pH(H <sub>2</sub> O)5.1。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-b層。
第3層	24~ 31cm	腐植に富む、黄褐(10YR5/4)のL。礫なし。発達弱度の塊状構造。細孔富む。ち密度1.7で疎。pH(H <sub>2</sub> O)4.9。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-b層。
第4層	31~ 45cm	腐植に頗る富む、黄褐(10YR3/3)のL。礫なし。発達弱度の塊状構造。細孔富む、小孔あり。ち密度1.8で疎。pH(H <sub>2</sub> O)4.9。調査時の湿り乾。層界判然。M-f層?。
第5層	45~ 60cm	腐植に富む、黄褐(10YR4/4)のSL。礫なし。発達弱度の塊状構造。細孔富む。ち密度1.8で疎。pH(H <sub>2</sub> O)5.1。調査時の湿り乾。層界平坦判然。M-f層?。
第6層	60~ 75cm	腐植を欠く、黄褐(10YR6/8)のS(触感ではSL)。礫なし。発達中程度の塊状構造。細孔富む。ち密度2.0で中。pH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り乾。層界平坦漸変。M-f層?。
第7層	75cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR5/8)のSL。礫なし。発達中程度の塊状構造。細孔富む、小孔あり。ち密度2.3で中。pH(H <sub>2</sub> O)5.0。調査時の湿り半乾。ローム層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	4.4		5.2	37.0	45.6	12.2	SiL			7.11	0.58	12	12.2
2	18~24	8.0		5.2	33.3	55.6	5.9	SiL			7.66	0.58	13	18.2
3	24~31	7.7		5.5	45.5	44.1	4.9	L			4.81	0.37	13	8.5
4	31~45	9.1		12.2	37.1	40.5	10.2	L			5.90	0.46	13	10.2
5	45~60	10.0		16.4	53.1	29.1	1.4	SL			4.19	0.34	12	7.2
6	60~75	9.7		18.6	70.7	9.3	1.4	S			—	—	—	—
7	75~	8.9		7.5	70.4	21.0	1.1	SL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.2	4.8	1.3	2.82	16.7	1.8	0.6	59.2	1,114	10.7
2	5.1	4.5	1.3	3.59	9.7	0.7	0.6	27.0	2,016	0.5
3	4.9	4.6	0.6	1.95	3.7	0.4	0.3	19.0	1,998	0.5
4	4.9	4.6	1.3	3.08	5.8	0.8	0.5	18.8	2,210	0.6
5	5.1	5.0	1.3	2.40	6.0	0.4	0.7	25.0	2,290	0.6
6	5.4	5.2	1.3	1.44	4.7	0.8	0.5	32.6	1,972	0.6
7	5.0	5.0	0.6	1.76	2.3	0.9	0.6	13.1	2,042	0.5

### A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては共和統、下徹別統、紀ノ丘統、阿寒統とがあるが、共和統とは礫の有無、下徹別統とは礫層の有無、母材、紀ノ丘統とは表土の厚さ、火山灰の堆積様式、阿寒統とは腐植層序が異り、それぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積

B 地形 緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.4℃ 年降水量 1,257mm

D 植生及び利用状況 牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項 石灰、熔燐などの土壌改良資材の増施をはかり、併せて深耕をおこな  
い根系域の拡大に努めること。

F 分布 北海道阿寒郡阿寒町下仁々志別、中仁々志別、元仁々志別、上仁々志別、東栄

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

### (2) 土壌統の細分

#### ① 土壌区一覽

土壌区名	簡略分級式
仁々志別—仁々志別	ll tfs

#### ② 土壌区別説明

仁々志別統一仁々志別区





pH (H<sub>2</sub>O) 5.0 前後。下層との境界平坦判然である。Me-b層。

第4層は厚さ5~10cmで腐植含量5~7%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度1.6~1.8で疎。pH (H<sub>2</sub>O) 5.3 前後。下層との境界平坦判然である。Me-b層。

第5層は厚さ15~20cmで腐植含量13~15%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度1.5~1.7で疎。pH (H<sub>2</sub>O) 5.0 前後。下層との境界平坦判然である。

第6層は厚さ10~15cmで腐植含量7~9%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに2~4である。礫なし。発達弱度の粒状構造。孔隙細孔含む。小孔あり。ち密度1.1~1.3で疎。pH (H<sub>2</sub>O) 4.8 前後。下層との境界平坦明瞭である。

第7層は80cm以下で細土の土性がSL (触感) の礫層である。色は10YRで明度3~5、彩度5~7である。0.2~10cmの未風化角礫層。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町下徹別 (試坑26)

第1層	0~22cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/2)のL。礫なし。発達弱度の平板状構造。孔隙なし。ち密度2.2で中。pH (H <sub>2</sub> O) 5.1。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。As, Me-1a, 2a層の混合層。
第2層	22~32cm	腐植を含む、黄褐(10YR 6/3)のL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙なし。ち密度2.1で中。pH (H <sub>2</sub> O) 5.3。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a, 2a層。
第3層	32~43cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 1.7/1)のCL。礫なし。発達弱度の粒状構造。細孔含む。ち密度1.9で中。pH (H <sub>2</sub> O) 5.0。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。Me-b層。
第4層	43~50cm	腐植に富む、黄褐(10YR 4/4)のL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔含む。ち密度1.7で疎。pH (H <sub>2</sub> O) 5.3。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。Me-b層。
第5層	50~68cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/2)のL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔含む。ち密度1.6で疎。pH (H <sub>2</sub> O) 5.0。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第6層	68~80cm	腐植に富む、黄褐(10YR 3/3)のSL。礫なし。発達弱度の粒状構造。細孔含む、小孔あり。ち密度1.2で疎。pH (H <sub>2</sub> O) 4.8。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第7層	80cm~	0.2~10cmの未風化角礫層。細土の土性はSL (触感) である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0 ~ 22	4.9		4.9	45.2	42.4	7.5	L			6.44	0.46	14	11.4
2	22 ~ 32	1.7		2.3	49.9	43.8	4.0	L			1.71	0.11	15	2.9
3	32 ~ 43	9.8		7.5	36.9	40.6	15.0	CL			11.06	0.59	19	19.0
4	43 ~ 50	6.5		4.9	48.9	43.4	2.8	L			3.62	0.24	15	6.2
5	50 ~ 68	11.3		23.3	34.1	33.4	9.2	L			8.24	0.50	16	14.2
6	68 ~ 80	11.4		32.4	38.5	27.6	1.5	SL			4.95	0.33	15	8.5

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.1	4.5	0.6	24.2	15.3	1.3	0.7	63.2	9.20	2.2
2	5.3	4.8	0.6	6.5	4.5	0.4	0.6	69.2	3.88	3.7
3	5.0	4.3	1.3	44.4	12.0	1.1	0.2	27.0	2.218	0.4
4	5.3	4.8	0.6	12.2	1.9	0.4	0.3	15.6	1.574	0.2
5	5.0	4.5	1.3	34.9	4.6	1.7	0.7	13.2	2.290	0.2
6	4.8	4.5	1.3	19.2	1.4	1.1	0.5	7.3	2.210	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては共和統、仁々志別統、紀ノ丘統、阿寒統があるが、いずれも母材、礫層の有無が異り、それぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山性）／固結火成岩

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積

B 地形 河岸段丘、緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.4℃ 年降水量 1,257mm

D 植生及び利用状況 牧草が栽培されている。一部は山林。

E 農業上の留意事項

石灰、熔燐などの土壌改良資材の増施と併せて深耕をはかり、自然肥沃度の向上をはかること。

F 分布 北海道阿寒郡阿寒町下徹別，中央

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
下 徹 別 一 下 徹 別	II t d f s



彩度 2~4 である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙なし。ち密度 2.2~2.4 中で。pH (H<sub>2</sub>O) 5.2 前後。下層との境界波状明瞭である。Me-1a, 2a 層。

第 3 層は厚さ 1.5~2.0 cm で腐植含量 1.7~1.9%、土性は L である。色は 10 YR で明度、彩度ともに 1~3 である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度 1.6~1.8 で疎。pH (H<sub>2</sub>O) 5.1 前後。下層との境界平坦判然である。Me-b 層。

第 4 層は厚さ 1.0~1.5 cm で腐植含量 5~7%、土性は L である。色は 10 YR で明度 3~5、彩度 2~4 である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔富む。小孔あり。ち密度 1.6~1.8 で疎。pH (H<sub>2</sub>O) 5.1 前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b 層。

第 5 層は厚さ 1.0~1.5 cm で腐植含量 1.9~2.1%、土性は CL である。色は 10 YR で明度 1.7~2、彩度 1~2 である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度 1.7~1.9 で疎~中。pH (H<sub>2</sub>O) 5.0 前後。下層との境界平坦判然である。

第 6 層は厚さ 2.0~2.5 cm で腐植含量 9~11%、土性は SL である。色は 10 YR で明度 1~3、彩度 2~4 である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔富む。小孔あり。ち密度 1.7~1.9 で疎~中。pH (H<sub>2</sub>O) 5.0 前後。下層との境界平坦判然である。

第 7 層は 8.0 cm 以下で腐植を欠く、土性は LiC である。色は 10 YR で明度 4~6、彩度 5~7 である。礫なし。発達中程度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度 1.8~2.0 で疎~中。pH (H<sub>2</sub>O) 5.2 前後。ローム層。

### 代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町紀ノ丘 (試坑 38)

第 1 層	0~1.0 cm	腐植に頗る富む、黒色 (10 YR 2/2) の L。礫なし。発達弱度の平板状構造。細孔あり。ち密度 2.0 中で。pH (H <sub>2</sub> O) 5.0。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a, 2a 層。
第 2 層	1.0~1.5 cm	腐植を含む、黄褐 (10 YR 7/3) の SiL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙なし。ち密度 2.3 中で。pH (H <sub>2</sub> O) 5.2。調査時の湿り乾。層界波状明瞭。Me-1a, 2a 層。
第 3 層	1.5~3.4 cm	腐植に頗る富む、黒色 (10 YR 2/1) の L。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔含む。ち密度 1.7 で疎。pH (H <sub>2</sub> O) 5.1。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-b 層。
第 4 層	3.4~4.5 cm	腐植に富む、黄褐 (10 YR 4/3) の L。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔富む。小孔あり。ち密度 1.7 で疎。pH (H <sub>2</sub> O) 5.1。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-b 層。
第 5 層	4.5~5.7 cm	腐植に頗る富む、黒色 (10 YR 1.7/1) の CL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度 1.8 で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.0。調査時の湿り乾。層界平坦判然。
第 6 層	5.7~8.0 cm	腐植に頗る富む、黄褐 (10 YR 2/3) の SL。礫なし。発達弱度の塊状構造。細孔富む。小孔あり。ち密度 1.8 で疎。pH (H <sub>2</sub> O) 5.0。調査時の湿り乾。層界平坦判然。
第 7 層	8.0 cm ~	腐植を欠く、黄褐 (10 YR 5/6) の LiC。礫なし。発達中程度の細塊状構造。細孔含む。ち密度 1.9 中で。pH (H <sub>2</sub> O) 5.2。調査時の湿り半乾。ローム層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0 ~ 10	5.2		5.0	44.7	41.2	9.1	L			7.02	0.55	13	12.1
2	10 ~ 15	2.2		3.2	46.3	46.5	4.0	S i L			2.77	0.18	15	4.8
3	15 ~ 34	8.3		2.8	47.0	35.3	14.9	L			10.55	0.64	16	18.2
4	34 ~ 45	7.1		2.7	61.8	35.0	0.5	L			3.77	0.26	14	6.5
5	45 ~ 57	12.8		3.8	39.7	36.5	20.0	C L			11.71	0.64	18	20.1
6	57 ~ 80	12.2		3.7	63.0	26.7	6.6	S L			5.85	0.31	19	10.1
7	80 ~	8.4		5.1	29.6	34.1	31.2	L i C			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.0	4.4	0.6	25.3	11.4	1.3	0.3	45.1	906	3.1
2	5.2	4.7	0.6	10.2	5.4	1.0	0.1	52.9	494	2.6
3	5.1	4.5	1.3	42.5	13.5	2.6	0.2	31.8	2060	0.6
4	5.1	4.6	0.6	13.4	2.1	1.3	0.1	15.7	1538	0.4
5	5.0	4.3	3.8	54.4	9.6	2.9	0.3	17.7	2218	0.2
6	5.0	4.4	1.9	34.2	4.9	3.3	0.5	14.3	2078	0.4
7	5.2	4.2	1.9	21.8	9.0	6.9	1.4	41.3	1138	0.5

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として、共和統、仁々志別統、下徹別統、阿寒統があるが、共和統とは礫の有無、仁々志別統とは表土の厚さ、火山灰の堆積様式、下徹別統とは礫層の有無、母材、阿寒統とは腐植層序が異り、それぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積

B 地形 緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.4℃ 年降水量 1,257mm

D 植生及び利用状況 牧草、豆類などが栽培されている。一部は山林。

E 農業上の留意事項 作土層が一般に浅いため、深耕と併せて石灰燐などの土壌改良資材の増施に努めること。

F 分布 北海道阿寒郡阿寒町紀ノ丘

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分



## A 土壌統の特徴

### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10～15cmで腐植含量12～14%、土性はLである。色は7.5 YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。発達弱度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度22～24で中。pH (H<sub>2</sub>O) 5.0前後。下層との境界波状明瞭である。Me-1a, 2a層。

第2層は厚さ5～10cmで腐植含量6～8%、土性はLである。色は10 YRで、明度4～6、彩度3～5である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度21～23で中。pH (H<sub>2</sub>O) 5.3前後。下層との境界波状明瞭である。Me-1a, 2a層。

第3層は厚さ5～10cmで腐植含量10～12%、土性はLである。色は10 YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度20～23で中。pH (H<sub>2</sub>O) 5.2前後。下層との境界平坦判然である。Me-b層。

第4層は厚さ15～20cmで腐植含量4～6%、土性はSLである。色は10 YRで明度2～4、彩度3～5である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度18～20で疎～中。pH (H<sub>2</sub>O) 5.4前後。下層との境界平坦漸変である。

第5層は厚さ25～30cmで腐植を欠く、土性はSLである。色は7.5 YRで明度4～6、彩度5～7である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔富む。小孔あり。ち密度22～24で中。pH (H<sub>2</sub>O) 6.0前後。下層との境界平坦漸変である。

第6層は72cm以下で腐植を欠くローム層、土性はCL (触感) である。色は7.5 YRで明度3～5、彩度5～7である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔を含む、小孔あり。ち密度20～22中。

### 代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町西阿寒 (試坑13)

第1層	0～13cm	腐植に頗る富む、黒色(7.5 YR 2/1)のL。礫なし。発達弱度の平板状構造。細孔あり。ち密度23で中。pH (H <sub>2</sub> O) 5.0。調査時の湿り乾。層界波状明瞭。Ma-1a, 2a層。
第2層	13～18cm	腐植に富む、黄褐(10 YR 5/4)のL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔あり。ち密度22で中。pH (H <sub>2</sub> O) 5.3。調査時の湿り乾。層界波状明瞭。Me-1a, 2a層。
第3層	18～25cm	腐植に頗る富む、黒色(10 YR 2/1)のL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔あり。ち密度21で中。pH (H <sub>2</sub> O) 5.2。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第4層	25～44cm	腐植に富む、黄褐(10 YR 3/4)のSL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔含む。ち密度19で中。pH (H <sub>2</sub> O) 5.4。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第5層	44～72cm	腐植を欠く、黄褐(7.5 YR 5/6)のSL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔富む、小孔あり。ち密度23で中。pH (H <sub>2</sub> O) 6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第6章	72cm～	腐植を欠く、黄褐(7.5 YR 4/6)のCL (触感)。礫なし。発達弱度の塊状構造。細孔含む、小孔あり。ち密度21で中。調査時の湿り半乾。ローム層



代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0 ~ 13	6.7		2.9	42.7	40.5	13.9	L			7.58	0.49	15	13.0
2	13 ~ 18	8.1		2.9	46.7	42.6	7.8	L			4.32	0.29	15	7.4
3	18 ~ 25	11.6		8.7	41.6	40.4	9.3	L			6.46	0.43	15	11.1
4	25 ~ 44	10.7		11.7	69.0	17.1	2.2	SL			3.29	0.24	14	5.7
5	44 ~ 72	9.1		12.4	63.8	17.9	5.9	SL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.0	4.4	1.3	27.9	7.3	1.9	0.4	26.2	1.564	1.1
2	5.3	4.7	1.3	15.7	3.0	0.4	0.3	19.1	1.776	0.6
3	5.2	4.5	1.3	31.7	4.2	1.4	0.6	13.3	2.298	0.8
4	5.4	4.8	1.3	22.4	2.1	0.8	0.8	9.4	2.162	0.6
5	6.0	5.3	0.6	14.3	3.1	0.0	0.4	21.7	1.724	0.8

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似する統として共和統、仁々志別統、下徹別統、紀ノ丘統があるが、共和統とは腐植層序礫の有無、仁々志別統とは腐植層序、下徹別統とは礫層の有無、腐植層序、紀ノ丘統とは腐植層序が異り、それぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積

B 地形 緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.4℃ 年降水量 1,257mm

D 植生及び利用状況 牧草、豆類、ビートが栽培されている。

E 農業上の留意事項 石灰、磷酸が少ないので、これらの増施をはかること。

F 分布 北海道阿寒郡阿寒町西阿寒、東舌辛、上阿寒

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌統区一覧

土壌区名	簡略分級式
阿寒 - 阿寒	II fn IIs

② 土壤区別説明

阿 寒 統 一 阿 寒 区

示性分級式 (畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(表	土	(	(	自	(	(	養	(	(	(	(	障	(	災	(	(	傾	(	(	侵	(	(	(						
壤	効	効	土	土	土	土	地	透	保	湿	然	保	固	土	分	置	有	微	酸	有	物	增	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐						
生	土	土	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	層	換	苦	加	効	害	害	冠	す	す	然	斜	為	水	風	耐	耐						
産	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	の	性	土	里	量	無	質	水	べ	べ	傾	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕						
力	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	の	性	土	里	量	無	質	水	べ	べ	傾	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕						
可	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	の	性	土	里	量	無	質	水	べ	べ	傾	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕						
能	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	の	性	土	里	量	無	質	水	べ	べ	傾	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕						
性	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	の	性	土	里	量	無	質	水	べ	べ	傾	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕						
等	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	の	性	土	里	量	無	質	水	べ	べ	傾	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕						
級	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	の	性	土	里	量	無	質	水	べ	べ	傾	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕						
	t	d	g	p			w			f			n						i		a			s			e									
Ⅲ	l	l	l	l	1	1	(2)	l	1	1	1	Ⅲ	2	3	3	Ⅲ	3	1	1	3	1	2	l	1	1	l	1	1	Ⅱ	2	—	—	l	1	1	2
簡略分級式 ⅢfnⅡs																																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は阿寒統に属する。表土の厚さは25cm前後で厚い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質のため耕起、砕土は容易である。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土の養分状態は石灰少、苦土多、加里多、磷酸小、酸度中で養分の豊否少である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況 牧草、豆類、ビートなどが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

養分状態が不良のため石灰、熔磷の増施をはかり、自然肥沃度の向上をはかること。

D 分 布 北海道阿寒郡阿寒町、東舌辛、上阿寒

記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

西 徹 別 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~25cmで腐植含量13~15%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。礫なし。発達弱度の平板状構造。孔隙なし。ち密度2.0~2.2で中。pH(H<sub>2</sub>O) 4.9前後。下層との境界波状明瞭である。Me-1a, 2a層。

第2層は厚さ10~15cmで腐植含量6~8%、土性はSiLである。色は10YRで明度、彩度

ともに3～5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度18～20で疎～中。pH (H<sub>2</sub>O) 5.1前後。下層との境界波状明瞭である。Me-1a, 2a層。

第3層は厚さ15～20cmで腐植含量18～20%、土性はLiCである。色は10YRで明度17～2、彩度1～2である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度17～19で疎～中。pH (H<sub>2</sub>O) 4.8前後。下層との境界平坦漸変である。Me-b層。

第4層は厚さ20～25cmで腐植含量8～10%、土性はCLである。色は10YRで明度、彩度ともに3～5である。礫なし。発達中度の細塊状構造。孔隙細孔富む、小孔あり。ち密度20～22で中。pH (H<sub>2</sub>O) 4.8前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第5層は65cm以下で腐植を欠く、土性はCLである。色は10YRで明度6～8、彩度3～5である。礫なし。発達中度の塊状構造。孔隙細孔あり、小孔あり。鉄の膜状の酸化沈積物に富む。ち密度23～25で中～密。pH (H<sub>2</sub>O) 4.8前後。ローム層。

### 代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町西徹別 (試坑50)

第1層	0～20cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/2)のL。礫なし。発達弱度の平板状構造。孔隙なし。ち密度21で中。PH (H <sub>2</sub> O) 4.9。調査時の湿り半乾。層界波状明瞭。Me-1a, 2a層。
第2層	20～30cm	腐植に富む、黄褐(10YR 4/4)のSiL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔含む。ち密度19で中。(H <sub>2</sub> O) 5.1。調査時の湿り半乾。層界波状明瞭。Me-1a, 2a層。
第3層	30～45cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 1.7/1)のLiC。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔含む。ち密度18で疎。pH (H <sub>2</sub> O) 4.8。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。Me-b層。
第4層	45～65cm	腐植に富む、黄褐(10YR 4/4)のCL。礫なし。発達中度の細塊状構造。細孔富む、小孔あり。ち密度21で中。pH (H <sub>2</sub> O) 4.8。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。Me-b層。
第5層	65cm～	腐植を欠く、黄褐(10YR 7/4)のCL。礫なし。発達中度の塊状構造。細孔あり、小孔あり。鉄の膜状の酸化沈積物に富む。ち密度24で中。pH (H <sub>2</sub> O) 4.8。調査時の湿り湿。ローム層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	5.7		3.1	43.6	43.3	10.0	L			8.51	0.64	13	14.6
2	20~30	4.9		1.8	46.5	47.9	3.8	SiL			4.43	0.33	13	7.6
3	30~45	10.8		6.3	21.7	36.9	35.1	LiC			11.16	1.93	6	19.2
4	45~65	7.8		6.6	37.2	40.3	15.9	CL			5.31	0.47	11	9.1
5	65~	5.7		4.0	36.9	36.3	22.8	CL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	4.9	4.2	3.1	29.7	9.1	0.9	0.3		30.6	1,352	3.8
2	5.1	4.5	1.3	16.2	3.4	0.4	0.1		21.0	1,600	1.0
3	4.8	4.1	6.3	57.6	11.0	1.8	1.0		19.4	2,218	1.1
4	4.8	4.0	10.0	30.4	4.2	1.4	0.3		13.8	2,060	1.0
5	4.8	4.0	6.3	22.3	11.0	5.8	0.3		49.3	896	0.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては大正統とがあるが、本統とは酸化沈積物の有無、礫の有無により、本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積

B 地形 波状性傾斜地

C 気候 年平均気温 5.4℃ 年降水量 1,257mm

D 植生及び利用状況 牧草が栽培されている。一部は山林。

E 農業上の留意事項 石灰熔燐などの増施をはかり、併せて深耕を行うこと。

F 分布 北海道阿寒郡阿寒町西徹別、大和、蘇牛

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
西徹別 - 西徹別	lltfns



第2層は厚さ5~10cmで腐植含量13~15%、土性はLである。色は10YRで明度1~3、彩度1~2である。礫なし。発達弱度の粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度21~23で中。pH(H<sub>2</sub>O) 5.1前後。下層との境界平坦判然である。Me-b層。

第3層は厚さ5~10cmで腐植含量8~10%、土性はSiLである。色は10YRで明度、彩度ともに5~7である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙なし。ち密度17~19で疎~中。pH(H<sub>2</sub>O) 5.3前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第4層は厚さ20~25cmで腐植含量9~11%、土性はLである。色は10YRで明度2~4、彩度1~3である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度17~19で疎~中。pH(H<sub>2</sub>O) 5.1前後。下層との境界平坦漸変である。

第5層は50cm以下で腐植を欠く、土性はL(触感)である。色は10YRで明度5~7、彩度7~8である。未風化半角礫含む。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度17~19で疎~中。

### 代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町大正(試坑31)

第1層	0~15cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のLo。礫なし。発達中度の平板状構造。細孔あり。ち密度26で密。pH(H <sub>2</sub> O) 4.7。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a, 2a層。
第2層	15~23cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/1)のLo。礫なし。発達弱度の粒状構造。細孔あり。ち密度22で中。pH(H <sub>2</sub> O) 5.1。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-b層。
第3層	23~30cm	腐植に富む、黄褐(10YR6/6)のSiLo。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙なし。ち密度18で疎。pH(H <sub>2</sub> O) 5.3。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-b層。
第4層	30~50cm	腐植に頗る富む、灰褐(10YR3/2)のLo。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度18で疎。pH(H <sub>2</sub> O) 5.1。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第5層	50cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR6/8)のL(触感)。未風化半角礫含む。発達弱度の塊状構造。細孔富む。ち密度18で疎。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 $g$	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0 ~ 15	6.4		4.2	4 4.5	4 3.3	8.0	L			7.89	0.46	17	13.6
2	15 ~ 23	10.6		4.9	4 2.2	4 0.4	1 2.5	L			8.13	1.58	14	14.0
3	23 ~ 30	8.5		3.5	4 5.3	4 5.3	5.9	S i L			5.15	0.35	15	8.9
4	30 ~ 50	10.2		8.1	4 2.2	4 0.0	1 0.7	L			5.92	0.41	14	10.2

層位	pH		置換酸 度 $Y_1$	塩基置換 容量 $me/100g$	置換性塩基 $me/100g$			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 $mg/100g$
	$H_2O$	KCl			CaO	MgO	$K_2O$			
1	4.7	4.2	2.5	2 7.8	8.4	0.8	0.5	30.2	1,256	1.5
2	5.1	4.5	1.3	4 2.1	1 4.5	0.3	0.1	34.4	2,166	0.5
3	5.3	4.7	1.3	1 8.6	3.7	0.4	0.2	19.9	1,794	0.6
4	5.1	4.5	0.6	3 0.7	4.9	1.6	0.2	16.0	2,122	0.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては西徹別統があるが、酸化沈積物の有無、礫の有無により、本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積

B 地形 緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.4℃ 年降水量 1,257mm

D 植生及び利用状況 牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項 石灰、燐などの増施に努め、併せて深耕を行なうこと。

F 分布 北海道阿寒郡阿寒町大正、西徹別、蘇牛

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
大 正 一 大 正	III n II t fs

② 土壤区別説明

大 正 統 一 大 正 区

(畑)

土	表	有	表	耕	(表	(表	(土	(	(	自	(	(	養	(	(	(	障	(	(	災	(	(	傾	(	(	侵	(	(		
壤	効	効	土	土	表	表	地	透	保	湿	然	保	固	土	分	置	有	微	酸	有	物	理	的	害	地	傾	人	侵	耐	耐
産	土	土	層	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	層	換	性	苦	加	量	害	害	的	害	増	地	自	傾	人	侵	耐
力	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	沃	力	力	の	の	土	里	要	無	質	的	的	的	冠	す	然	為	水	風	
可	の	の	の	の	の	の	の	性	性	度	沃	力	力	の	の	土	里	要	無	質	的	的	的	冠	す	然	為	水	風	
能	厚	深	含	難	土	着	乾	性	性	度	沃	力	力	の	の	土	里	要	無	質	的	的	冠	す	然	為	水	風		
性	等	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	
	t	d	g	p		w		f		n																				
Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		
簡略分級式	Ⅲ	n	Ⅲ	t	f	s																								

A 土壤区の特徴

この土壤区は大正統に属する。表土の厚さは20~25cm内外でやや厚い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質のため耕起、砕土は容易である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は中。作土の養分状態は石灰中、苦土中、加里多、磷酸少、酸度強で養分の豊否少である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況 牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

酸度がかなり進んでいるので、酸性矯正をはかり、併せて熔燐などの土壤改良資材の増施に努めること。

D 分布 北海道阿寒郡阿寒町大正、西徹別、蘇牛

記載責任者 上坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

西 阿 寒 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~25cmで腐植含量13~15%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。0.2~0.4cmの角礫含む。発達弱度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度22



～24で中。pH (H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a, 2a層。

第2層は厚さ15～20cmで腐植含量7～9%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに2～4である。0.2～2.0cmの角礫含む。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔富む。ち密度20～22で中。pH (H<sub>2</sub>O) 5.3前後。下層との境界平坦判然である。

第3層は39cm以下で腐植を欠く、土性はSLである。色は10YRで明度4～6、彩度6～8である。0.2～3.0cmの角礫含む。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度23～25で中～密。pH (H<sub>2</sub>O) 5.4前後。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町西阿寒(試坑12)

第1層	0～23cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/1)のL。0.2～0.4cmの角礫含む。発達弱度の平板状構造。細孔あり。ち密度23で中。pH (H <sub>2</sub> O) 5.5。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a, 2a層。
第2層	23～39cm	腐植に富む、黄褐(10YR3/3)のSL。0.2～2.0cmの角礫含む。発達弱度の細粒状構造。細孔富む。ち密度21で中。pH (H <sub>2</sub> O) 5.3。調査時の湿り乾。層界平坦判然。
第3層	39cm～	腐植を欠く、黄褐(10YR5/8)のSL。0.2～3.0cmの角礫含む。発達弱度の塊状構造。細孔富む。ち密度24で中。pH (H <sub>2</sub> O) 5.4。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～23	6.9		5.0	44.8	37.1	13.1	L			8.08	0.52	15	13.9
2	23～39	10.1		11.1	55.5	28.5	4.9	SL			5.00	0.35	14	8.9
3	39～	8.0		12.1	56.0	24.0	7.9	SL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容 me/100g	置換性塩基 me/100g				石灰飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	5.5	4.4	1.3	27.9	5.3	1.0	0.2		19.0	1.786	1.1
2	5.3	4.6	1.5	23.4	1.8	0.9	0.4		7.7	2.280	0.3
3	5.4	4.6	0.6	15.2	3.0	0.9	0.3		19.7	1.603	0.8

A-2 他の土壌統との関係 本統は崩積堆積のため、本統は独立統である。

A-3 母材 非固結火成岩(火山灰)／固結火成岩(安山岩)

A-4 堆積様式 風積(火山性)／崩積

B 地形 緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.4℃ 年降水量 1,257mm

D 植生及び利用状況 牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項 石灰、燄燐などを増施して土壌改良を行ない、併せて深耕を行なうこと。

F 分布 北海道阿寒郡阿寒町西阿寒

調査及び記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡略分級式
西阿寒 — 西阿寒	III fn II tgs

② 土壌区別説明

西阿寒統 — 西阿寒区

示性分級式 (畑)

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	表土の耕起の容易さ	表土の土質	表土の土質	表土の土質	表土の土質	透水性	保湿度	自然肥力	固定力	土層の塩基状態	置換性	石灰含量	苦土中	加里少	燄燐少	酸度中	養分の豊否	障害性	有害物質の有無	物理的障害性	増冠水の危険度	地すべりの危険度	傾斜	自然傾斜	人為傾斜	侵蝕	耐水性	耐風性			
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	c																							
III	II	II	I	I	I	I	I	I	I	III	2	3	3	III	3	2	3	3	1	2	I	I	I	I	I	II	2	—	—	I	I	I	2
簡略分級式		III fn		II tgs																													

A 土壌区の特徴

この土壌区は西阿寒統に属する。表土の厚さは20~25cm内外でやゝ厚い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土の養分状態は石灰少、苦土中、加里少、燄燐少、酸度中で養分の豊否少である。特殊な障害性、災害性はない。表土に角礫含む。

B 植生及び利用状況 牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点 石灰、燄燐などの土壌改良資材の増施に努め、自然肥沃度、養分の豊否などの向上をはわり、併せて深耕を行なうこと。

D 分布 北海道阿寒郡阿寒町西阿寒

記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

## 上 徹 別 統

### (1) 土壤統の概要

#### A 土壤統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量16～18%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度21～23で中。

PH (H<sub>2</sub>O) 5.2前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a・2a層。

第2層は厚さ10～15cmで腐植含量9～11%、土性はLである。色は10YRで明度2～4、彩度1～2である。0.2～0.4cmの浮石質円礫含む。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度19～21で中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.2前後。下層との境界平坦明瞭である。

第3層は厚さ10～15cmで腐植含量2～4%の礫層。(細土の土性はSLである)。色は10YRで明度4～6、彩度3～5である。0.2～0.5cmの浮石円礫(水積)層。単粒状。孔隙なし。ち密度19～21で中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.0前後。下層との境界平坦明瞭である。

第4層は厚さ15～20cmで腐植含量7～9%、土性はLiCである。色は10YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔富む。小孔あり。ち密度21～23で中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.2前後。下層との境界平坦判然である。

第5層は厚さ5～10cmで腐植含量4～6%、土性はCLである。色は10YRで明度3～5、彩度1～3である。礫なし。発達中度の塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度18～20で疎～中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.0前後。下層との境界平坦漸変である。

第6層は75cm以下で腐植を欠く。土性はLSである。色は10YRで明度4～6、彩度5～7である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔含む。小孔あり。ち密度19～21で中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.2前後。川砂と粘土の互層

#### 代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町上徹別(試坑62)

第1層	0～25cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/2)のL。礫なし。発達弱度の塊状構造。細孔あり。ち密度22で中。PH (H <sub>2</sub> O) 5.2。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a・2a層。
第2層	25～40cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 3/1)のL。0.2～0.4cmの浮石質円礫含む。発達弱度の塊状構造。細孔富む。ち密度20で中。PH (H <sub>2</sub> O) 5.2。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第3層	40～50cm	腐植を含む、黄褐色(10YR 5/4)の礫層。細土の土性はSL。0.2～0.5cmの浮石円礫(水積)層。単粒状。孔隙なし。ち密度20で中。PH (H <sub>2</sub> O) 5.0。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。

第4層	50~66cm	腐植に富む。黒色(10YR2/2)のLiC。鏝なし。発達中度の塊状構造。細孔富む。小孔あり。ち密度22で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.2。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第5層	66~75cm	腐植に富む。灰褐(10YR4/2)のCL。鏝なし。発達中度の塊状構造。細孔富む。ち密度19で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.0。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第6層	75cm~	腐植を欠く。黄褐(10YR5/6)のLS。鏝なし。発達弱度の塊状構造。細孔含む。小孔あり。ち密度20で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.2。調査時の湿り湿。川砂と粘土の互層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	燐含量重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	6.1		5.1	40.5	42.0	12.4	L			9.86	1.79	5	17.0
2	25~40	6.4		15.5	38.7	34.9	10.9	L			5.96	0.49	12	10.3
3	40~50	3.8		36.5	45.6	15.1	2.8	S L			15.7	0.11	14	2.7
4	50~66	6.9		8.7	35.3	33.2	22.8	LiC			4.79	0.37	13	8.2
5	66~75	6.1		8.9	34.5	34.8	21.8	C L			2.98	0.23	13	5.1
6	75~	3.9		20.6	64.7	11.2	3.5	L S			0.36	0.02	18	0.6

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態燐 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.2	4.5	1.3	32.0	14.5	1.9	0.2	45.3	1,432	4.3
2	5.2	4.4	2.5	25.2	44	2.2	0.6	17.5	1,812	0.7
3	5.0	4.2	1.9	11.4	4.3	0.1	0.9	37.7	972	1.2
4	5.2	4.2	3.8	37.6	144	3.1	3.0	38.3	1,458	0.6
5	5.0	4.1	5.0	34.1	14.5	3.7	0.9	42.5	1,264	0.6
6	5.2	4.2	6.3	17.7	105	3.5	0.8	59.3	624	1.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては中徹別統、下布伏内統、中阿寒統、下舌辛統、上舌辛統とがあるが、中徹別統とは腐植層序、燐層の有無。下布伏内統とは腐植層序、有効土層の深さ、中阿寒統とは腐植層序、燐層の有無、下舌辛統とは腐植層序、燐層の有無、酸化沈積物の有無、上舌辛統とは腐植層序、燐層の有無、酸化沈積物の有無が異り、それぞれ本統と区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩(火山灰) / 非固結水成岩(砂)

A-4 堆積標式

風積（火山性）／水積（河成）

B 地形

緩傾斜地

C 気候

年平均気温 5.4℃ 年降水量 1,257mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

石灰、熔燐などを増施して土壤改良を行なうこと。

F 分布

北海道阿寒郡阿寒町上徹別、中徹別

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
上徹別-上徹別	IIfnis

② 土壤区別説明

上徹別統-上徹別区

示性分級式（畑）

土壌	表土	耕作土	表土	表土	表土	土	透	保	湿	自	固	養	置	有	微	酸	障	有	物	増	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐							
生	土	土	土	土	土	地	然			層	分	換	"	"	効				害	理	冠	す	然	斜	為		水	風							
産	土	土	土	土	土	の				の	性	態	量						害	質	害	の	の	傾	傾	蝕	蝕								
力	の	の	の	の	の	風				水	滴	肥	肥	定	塩	の	石	苔	加	燐		的	の	の	蝕	蝕									
可	の	の	の	の	の	粘				沃	状	豊	含	"	"	"				害	障	危	危	傾	傾	蝕	蝕								
能	の	の	の	の	の	土				沃	状	豊	含	"	"	"				害	障	危	危	傾	傾	蝕	蝕								
性	厚	深	含	性	性	性				沃	状	豊	含	"	"	"				害	障	危	危	傾	傾	蝕	蝕								
等	深	含	性	性	性	性				沃	状	豊	含	"	"	"				害	障	危	危	傾	傾	蝕	蝕								
級	さ	量	易	湿	度	度				沃	状	豊	含	"	"	"				害	障	危	危	傾	傾	蝕	蝕								
	t	d	g	P		w				f		n							i	a	s		e												
II	I	I	I	I	1	1	(2)	I	1	1	1	II	2	2	2	II	2	1	2	2	1	2	II	1	2	I	1	1	II	2	--	I	1	1	2
簡略分級式	IIfnis																																		

### A 土壤区の特徴

この土壤区は上徹別統に属する。表土の厚さは25cm内外で厚い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態で自然肥沃度は中、作土の養分状態は石灰中、苦土多、加里中、燐酸中、酸度中で養分の豊否中である。除去や、困難な物理的障害性がある。

### B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

### C 地力保全上の問題点

石灰、燐酸などの土壤改良資材の増施に努め、自然肥沃度、養分の豊否などの向上をはかること。

### D 分 布

北海道阿寒郡阿寒町上徹別、中徹別

記載責任者 上坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

## 中 徹 別 統

### (1) 土壤統の概要

#### A 土壤統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量10~12%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。礫なし。発達中度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度2.3~2.5で中~密。PH(H<sub>2</sub>O) 5.0前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量11~13%、土性はCLである。色は10YRで明度1~3、彩度1~2である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度1.9~2.1で中。PH(H<sub>2</sub>O) 5.0前後。下層との境界平坦漸変である。Me-1a、2a層。

第3層は30cm以下で腐植を欠く、土性はSLである。色は10YRで明度4~6、彩度5~7である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度1.8~2.0で疎~中。PH(H<sub>2</sub>O) 5.0前後。川砂層。

### 代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町中徹別(試坑48)

第1層	0~15cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR 2/2)のL。礫なし。発達中度の平板状構造。細孔あり。ち密度2.4で中。PH(H <sub>2</sub> O) 5.0。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
-----	--------	--

第2層	15~30cm	腐植に頗る富む。黒色(10YR2/1)のCL。保なし。発達弱度の塊状構造。細孔含む。ち密度20で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.0。調査時の湿り乾。層界平坦漸変。Me-1a, 2a層。
第3層	30cm~	腐植を欠く。黄褐色(10YR5/6)のSL。保なし。発達弱度の細塊状構造。細孔含む。ち密度19で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.0。調査時の湿り半乾。川砂層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	鉄含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	坵地容積 %	具比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	4.6		3.5	45.9	38.7	11.9	L			6.43	0.56	12	11.1
2	15~30	8.8		10.9	49.8	20.9	18.4	CL			7.04	0.64	11	12.1
3	30~	4.2		1.7	72.6	19.8	5.9	SL			-	-	-	-

層位	PH		直換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 mg/100g	直換性塩基 me/100g				石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	5.0	4.5	1.3	24.7	12.8	0.4	0.2	5.18	1,022	5.0	
2	5.0	4.3	2.5	39.5	13.6	0.9	0.2	3.44	1,704	0.9	
3	5.0	4.1	6.3	19.4	8.3	1.5	0.3	4.28	928	1.5	

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては、上徹別統、下布伏内統、下舌辛統、上舌辛統とがあるが上徹別統とは腐植層序、燐層の有無、下布伏内統とは腐植層序、燐層の有無、有効土層の浅深、中阿寒統とは腐植層序、下舌辛統とは腐植層序、酸化沈積物の有無、上舌辛統とは腐植層序、酸化沈積物の有無が異り、それぞれ本統と区別される。

A-3 母材

非固結火成岩(火山灰) / 非固結水成岩(砂)

A-4 堆積様式

風積(火山性) / 水積(河成)

B 地形

平坦

C 気候

年平均気温 5.4 °C

年降水量 1,257 mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

石灰、燐などを増施し反応の矯正をはかること。

F 分 布

北海道阿寒郡阿寒町中徹別、中央、下徹別、上徹別、飽別、大和、上舌辛

調査及び記載責任者 上坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中徹別 - 中徹別	II f n a

② 土壌区別説明

中徹別統 - 中徹別区

示性分級式 (畑)

土	表	表	耕	(土)	(透)	(保)	(湿)	(自)	(保)	(固)	(土)	(養)	(置)	(有)	(微)	(酸)	(障)	(災)	(増)	(地)	(傾)	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)	(耐)									
壤	効	土	土	土	土	の	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	水	り	の	の	斜	為	水	風	耐	耐								
生	土	土	土	の	の	風	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	燐	害	質	害	の	の	傾	傾	水	風	耐	耐							
産	土	土	土	の	の	風	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	燐	害	質	害	の	の	傾	傾	水	風	耐	耐							
力	の	の	の	の	の	風	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	燐	害	質	害	の	の	傾	傾	水	風	耐	耐							
可	の	の	の	の	の	風	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	燐	害	質	害	の	の	傾	傾	水	風	耐	耐							
能	の	の	の	の	の	風	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	燐	害	質	害	の	の	傾	傾	水	風	耐	耐							
性	厚	深	含	難	土	着	硬	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	"	"	有	害	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性							
等	深	含	難	土	着	硬	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	"	"	"	有	害	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性							
級	さ	さ	量	易	(土)	(湿)	(度)	(度)	(力)	(態)	(量)	(素)	(度)	(性)	(性)	(性)	(性)	(性)	(性)	(性)	(性)	(性)	(性)	(性)	(性)	(性)	(性)	(性)	(性)							
	t	d	g	P	w	f	n	i	a	s	e																									
	II	I	I	I	I	1	1	(2)	I	1	1	1	II	2	2	2	II	1	3	2	2	1	2	I	1	1	II	2	1	I	1	--	I	1	1	2
簡略分級式	II f n a																																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は中徹別統に属する。表土の厚さは30cm内外で厚い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態中で自然肥沃度は中。作土の養分状態は石灰多、苦土少、加里中、燐酸中、酸度中で養分の豊否中である。豪雨により増、冠水の災害をうける危険性が多少ある。

B 植生及び利用状況



牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

石灰、燐などの土壌改良資材の増施、河川改修

D 分 布

北海道阿寒郡阿寒町中徹別、中央、下徹別、上徹別、飽別、大和、上舌辛

記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和46年3月31日

下 布 伏 内 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量1~3%、土性はSLである。色は10YRで明度2~4、彩度3~5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度1.8~2.0で疎~中。PH(H<sub>2</sub>O) 4.9前後。下層との境界平坦明瞭である。

第2層は厚さ15~20cmで腐植を欠く。土性はSである。色は10YRで明度3~5、彩度1~3である。礫なし。単粒状、孔隙なし。ち密度1.3~1.5で疎。PH(H<sub>2</sub>O) 5.7前後。下層との境界波状明瞭である。川砂層。

第3層は厚さ25~30cmで腐植含量1~2%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度1.8~2.0で疎~中。PH(H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。川砂と粘土の互層。

第4層は60cm以下で腐植を欠く。0.2~2.0cmの浮石、川砂利の礫層。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町中阿寒(試坑6)

第1層	0~15cm	腐植を含む、黄褐(10YR3/4)のSL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔あり。ち密度1.9で中。PH(H <sub>2</sub> O) 4.9。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第2層	15~32cm	腐植を欠く、灰褐(10YR4/2)のS。礫なし。単粒状。孔隙なし。ち密度1.4で疎。PH(H <sub>2</sub> O) 5.7。調査時の湿り半乾。層界波状明瞭。川砂層。
第3層	32~60cm	腐植あり、黄褐(10YR4/4)のSL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔含む。ち密度1.9で中。PH(H <sub>2</sub> O) 5.5。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。川砂と粘土の互層。
第4層	60cm~	腐植を欠く。0.2~2.0cmの浮石、川砂利の礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	炭含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	2.7		15.0	67.1	11.7	6.2	SL			1.18	0.12	10	20
2	15~32	1.9		26.1	70.4	3.5	0.0	S			—	—	—	—
3	32~60	3.4		1.4	75.8	165	6.3	SL			0.81	0.07	12	1.4

層位	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	4.9	4.0	5.0	15.0	9.7	0.9	0.5		64.7	34.4	15.0
2	5.7	4.4	2.5	9.6	6.9	1.1	0.4		71.9	13.2	13.3
3	5.5	4.5	2.5	18.6	13.2	2.7	0.7		71.0	47.8	14.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては上徹別統、中徹別統、中阿寒統、下古辛統、上舌辛統とがあるが、上徹別統とは腐植層序、有効土層の浅深、中徹別統とは腐植層序、礫層の有無、有効土層の浅深、酸化沈積物の有無、上舌辛統とは礫層の有無、有効土層の浅深、酸化沈積物の有無により、それぞれ本統と区別さる。

A-3 母 材

非固結水成岩(泥) / 非固結水成岩(礫)

A-4 堆積様式

水積(河成) / 水積(河成)

B 地 形

平坦

C 気 候

年平均気温 5.4 °C

年降水量 1,257 mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

川砂層があるので過干のおそれがある。石灰、燐などの土壌改良資材の増施をはかり、併せて有機物の施用に努めること。

F 分 布

北海道阿寒郡阿寒町中阿寒、下布伏内

調査及び記載責任者 上坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
下布伏内—下布伏内	II t d (w) n a

② 土壤区別説明

下布伏内統—下布伏内区

示性分級式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 的 厚 深	表 土 質 難 含	表 土 質 粘 土 着 硬 性 湿	土 質 乾 性 度	目 然 然 然	自 保 固 土 層 分 類	養 分 状 態 否	直 接 性 量	有 機 物 質 的 障 害 有 害 性	障 害 的 障 害 有 害 性	災 害 的 障 害 有 害 性	傾 斜 危 險 性	傾 斜 危 險 性	侵 入 傾 斜 危 險 性	耐 風 蝕 性											
t d g P	w	f	n	i	a	s	e																			
II	II	I	I	1	1	(2)	(II)	1	2	(2)	I	2	1	1	II	1	2	1	I	1	—	—	I	1	1	1
簡略分級式		II t d (w) n a																								

A 土壤区の特徴

この土壤区は下布伏内統に属する。表土の厚さは15cm内外で浅い。有効土層は60cm前後でやや深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力ごく小。土層の塩基状態良で自然肥沃度は高い。作土の養分状態は石灰多、苦土中、加里多、磷酸多、酸度強で養分の豊否中である。過干のおそれがある。豪雨により増、冠水の災害をうける危険性が多少ある。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

川砂層のため過干のおそれがある。石灰、熔磷などの土壤改良資材の増施、有機物の施用、増冠水による災害をうける危険性が多少あるので河川改修などを行なう。

D 分 布

北海道阿寒郡阿寒町、中阿寒、下布伏内

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

# 中 阿 寒 統

## (1) 土壌統の概要

### A 土壌統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25～30cmで腐植含量3～5%、土性はCLである。色は10YRで明度、彩度ともに2～4である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度1.7～1.9で疎～中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.2前後。下層との境界平坦漸変である。

第2層は28cm以下で腐植を欠く。土性はSLである。色は10YRで明度3～5、彩度5～7である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔富む。小孔あり。ち密度1.4～1.6で疎。PH (H<sub>2</sub>O) 5.7前後。川砂と粘土の互層。

#### 代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町中阿寒 (試坑5)

第1層	0～28cm	腐植を含む。黄褐(10YR3/3)のCL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度1.8で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.2。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第2層	28cm～	腐植を欠く。黄褐(10YR4/6)のSL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔富む。小孔あり。ち密度1.5で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.7。調査時の湿り半乾。川砂と粘土の互層。

#### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～28	4.7		1.4	34.5	43.7	20.4	CL			2.79	0.29	10	4.8
2	28～	3.5		1.4	80.6	15.0	3.0	SL			—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	5.2	4.3	2.5	29.4	19.5	2.6	0.9	66.3	58.4	19.0	
2	5.7	4.5	1.3	18.6	13.9	2.5	0.4	74.7	52.2	11.7	

#### A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては上徹別統、中徹別統、下布伏内統、下舌辛統、上舌辛統があるが、上徹別統とは腐植層序、礫層の有無、中徹別統とは腐植層序、下布伏内統とは礫層の有無、有効土層の浅深、下舌辛統、上舌辛統とは酸化沈積物の有無が異り、それぞれ本統と区別される。

A-3 母 材

非固結水成岩(泥) / 非固結水成岩(砂)

A-4 堆積様式

水積(河成) / 水積(河成)

B 地 形

平坦

C 気 候

年平均気温 5.4 °C

年降水量 1,257 mm

D 植生及び利用状況

野菜類、豆類、牧草などが栽培されている。

E 農業上の留意事項

腐植が少ないので堆肥の施用に努めること。

F 分 布

北海道阿寒郡阿寒町中阿寒、上阿寒、東舌辛、下舌辛、北新町、新町、上舌辛、下布伏内、知茶布、  
下徹別、飽別

調査及び記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中阿寒 - 中阿寒	II a

② 土壌区別説明

中阿寒統 - 中阿寒区

示性分級式 (畑)

土表有表耕	(	(土	(	(自	(	(資	(	(障	(	(災	(	(傾	(	(侵	(	(耐					
壤効土	表	表	透	保	濕	固	土	直	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐	
生土	土	土	土	土	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	
産土	土	土	土	土	の		の	性	態	量			物	的	水	べ	然	為			
力	の	の	の	の	風								害	質	害	の					
可	の	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	
能	の	の	の	の	粘	土							基	灰	土	里	酸	妥	の	障	
性	厚	含	難	土	着	の	乾	沃	状	豊	含	"	"	"					無	性	
等	深				性	性	性	性	度	力	力	態	量	"	"	"	素	度	無	性	
級	さ	さ	量	易	湿	度	度	否									性	性	性	性	
	t	d	g	P	w	f	n							i	a	s	e				
	II	I	I	I	I	2	1	1	I	1	1	1	I	1	1	1	1	2	I	1	1
														II	2	1	I	1	--	I	1
	簡略分級式		II a																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は中阿寒統に属する。表土の厚さは30cm内外で厚い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は粘質であるが耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力ごく小、土層の塩基状態良で自然肥沃度は高。作土の養分状態は石灰多、苦土多、加里多、磷酸多、酸度中で養分の豊否多である。豪雨により増、冠水の災害をうける危険性が多少ある。

B 植生及び利用状況

野菜類、豆類、牧草などが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

豪雨により増、冠水する危険性が多少あるので河川改修などを行うこと。

D 分布

北海道阿寒郡阿寒町中阿寒、東舌辛、下舌辛、北新町、新町、上舌辛、下布伏内、知茶布、下徹別、飽別

記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

下 舌 辛 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量3~5%、土性はLである。色は10YRで明度3~5、

彩度 1～3 である。疎なし。発達中度の平板状構造。孔隙なし。鉄の糸根状酸化沈積物を含む。ち密度 23～25 で中～密。PH (H<sub>2</sub>O) 4.7 前後。下層との境界平坦明瞭である。

第 2 層は厚さ 5～10 cm で腐植を欠く。土性は L である。色は 7.5 YR で明度 5～7、彩度 2～4 である。疎なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙なし。ち密度 25～27 で密。PH (H<sub>2</sub>O) 5.0 前後。下層との境界波状明瞭である。Me-1a、2a 層。

第 3 層は厚さ 3～5 cm で腐植を欠く。土性は SiL である。色は 10 YR で明度 4～6、彩度 1～3 である。疎なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙なし。ち密度 20～22 で中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.1 前後。下層との境界波状明瞭である。Me-1a、2a 層。

第 4 層は厚さ 10～15 cm で腐植を欠く。土性は L である。色は 2.5 Y で明度 4～6、彩度 1～2 である。疎なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙なし。鉄の糸根状酸化沈積物に富む。ち密度 20～22 で中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.0 前後。下層との境界平坦明瞭である。

第 5 層は厚さ 25～30 cm で腐植含量 1～2%。土性は SiCL である。色は 10 YR、明度 3～5、彩度 1～3 である。疎なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔あり。鉄の糸根状酸化沈積物に富む。ち密度 16～18 で疎。PH (H<sub>2</sub>O) 5.1 前後。下層との境界平坦判然である。

第 6 層は厚さ 25～30 cm で腐植を欠く。土性は SL である。色は 2.5 Y で明度 4～6、彩度 1～3 である。疎なし。発達弱度の塊状構造。孔隙なし。鉄の糸根状酸化沈積物に富む。ち密度 18～20 で疎～中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.4 前後。下層との境界平坦漸変である。

第 7 層は 90 cm 以下で腐植を欠く。土性は SL (触感) である。色は 2.5 Y で明度 4～6、彩度 1～2 である。疎なし。発達弱度の塊状構造。孔隙なし。鉄の糸根状酸化沈積物を含む。ち密度 15～17 で疎。

### 代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町下舌平 (試坑 1)

第 1 層	0～16cm	腐植を含む。灰褐 (10 YR 4/2) の L。疎なし。発達中度の平板状構造。孔隙なし。鉄の糸根状酸化沈積物を含む。ち密度 24 で中。PH (H <sub>2</sub> O) 4.7。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第 2 層	16～22cm	腐植を欠く。黄褐 (7.5 YR 6/3) の L。疎なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙なし。ち密度 26 で密。PH (H <sub>2</sub> O) 5.0。調査時の湿り半乾。層界波状明瞭。Me-1a、2a 層。
第 3 層	22～25cm	腐植を欠く。灰褐 (10 YR 5/2) の SiL。疎なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙なし。ち密度 21 で中。PH (H <sub>2</sub> O) 5.1。調査時の湿り半乾。層界波状明瞭。Me-1a、2a 層。
第 4 層	25～37cm	腐植を欠く。灰褐 (2.5 Y 5/1) の L。疎なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙なし。鉄の糸根状酸化沈積物富む。ち密度 21 で中。PH (H <sub>2</sub> O) 5.0。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。

第5層	37~65cm	腐植を欠く、灰褐(10YR4/2)のs i c L。礫なし。発達弱度の塊状構造。細孔あり。鉄の糸根状酸化沈積物富む。ち密度17で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.1。調査時の湿り湿。層界平坦判然。
第6層	65~90cm	腐植を欠く、灰褐(2.5Y5/2)のs L。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙なし。鉄の糸根状酸化沈積物富む。ち密度19で中。PH (H <sub>2</sub> O) 5.4。調査時の湿り湿。層界平坦漸変。
第7層	90cm~	腐植を欠く、灰褐(2.5Y5/1)のs L (触感)。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙なし。鉄の糸根状酸化沈積物を含む。ち密度16で疎。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	総含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積量%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	4.4		8.0	41.5	35.9	14.6	L			255	0.25	10	4.4
2	16~22	1.5		1.2	52.0	43.7	3.1	L			-	-	-	-
3	22~25	1.0		4.5	44.8	48.4	2.3	SiL			-	-	-	-
4	25~37	3.9		0.7	51.7	35.0	12.6	L			-	-	-	-
5	37~65	4.6		1.0	35.2	48.4	15.4	SiL			-	-	-	-
6	65~90	3.4		4.5	71.7	17.8	6.0	SL			-	-	-	-

層位	PH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g				石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	4.7	4.0	2.5	23.0	11.1	2.7	1.1		48.3	64.6	4.5
2	5.0	4.3	1.3	4.1	14	0.5	0.2		34.2	23.0	6.4
3	5.1	4.4	1.3	5.1	14	0.9	0.1		27.5	17.4	16.8
4	5.0	4.0	5.0	21.4	11.5	4.1	0.3		53.7	48.6	16.2
5	5.1	4.0	5.0	24.1	13.8	4.6	0.3		57.3	61.0	10.4
6	5.4	4.0	2.5	17.2	10.3	4.2	0.3		59.9	24.8	15.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては、上古辛統があるがグライ層の有無により、本統と区別される。

A-3 母 材

非固結水成岩(泥) / 非固結水成岩(泥)

A-4 堆積様式

水積(河成) / 水積(河成)





## A 土壌区の特徴

この土壌区は下舌辛統に属する。表土の厚さは25cm内外で厚い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力ごく小。土層の塩基状態良で自然肥沃度は高い。作土の養分状態は石灰中、苦土多、加里多、磷酸中、酸度強で養分の豊否中である。過湿のおそれがありまた、豪雨により増、冠水の災害をうける危険性が多少ある。

## B 植生及び利用状況

牧草、トウモロコシなどが栽培されている。

## C 地力保全上の問題点

石灰などを投与して酸性矯正をはかる。過湿のおそれがあるので排水を行うこと。また豪雨による増、冠水の危険があるので河川改修などを行うこと。

## D 分 布

北海道阿寒郡阿寒町下舌辛、東舌辛、旭町、中町、富士見町、上舌辛

記載責任者 上坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

# 上 舌 辛 統

## (1) 土壌統の概要

### A 土壌統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10～15cmで腐植含量4～6%、土性はCLである。色は10YRで明度2～4、彩度3～5である。礫なし。発達中度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度2.0～2.2で中。PH(H<sub>2</sub>O) 5.1前後。下層との境界平坦明瞭である。

第2層は厚さ20～25cmで腐植含量1～3%、土性はCLである。色は10YRで明度4～6、彩度3～5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔含む。鉄の糸根状酸化沈積物を含む。ち密度1.7～1.9で疎～中。PH(H<sub>2</sub>O) 5.4前後。下層との境界平坦漸変である。

第3層は厚さ20～25cmで腐植を欠く。土性はLである。色は10YRで明度4～6、彩度2～4である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔あり。鉄の雲状及びマンガン斑の酸化沈積物を含む。ち密度1.9～2.1で中。PH(H<sub>2</sub>O) 5.4前後。下層との境界平坦漸変である。

第4層は厚さ5～10cmで腐植を欠く。土性はSLである。色は5YRで明度3～5、彩度5～7である。礫なし。連結状。孔隙なし。鉄の集積層。ち密度2.1～2.3で中。PH(H<sub>2</sub>O) 5.7前後。下層との境界平坦明瞭である。

第5層は5.8cm以下で腐植を欠く。土性はLである。色は10GYで明度3～5、彩度1～2である。礫なし。連結状。孔隙なし。全層グライ層。ち密度2.2～2.4で中。PH(H<sub>2</sub>O) 4.7前後。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿寒町上阿寒(試坑4)

第1層	0~11cm	腐植に富む、黄褐(10YR3/4)のCL。疎なし。発達中度の平板状構造。細孔あり。ち密度21で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.1。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭
第2層	11~30cm	腐植を含む、黄褐(10YR5/4)のCL。疎なし。発達弱度の細塊状構造。細孔含む。鉄の糸根状酸に沈積物を含む。ち密度18で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第3層	30~52cm	腐植を欠く、黄褐(10YR5/3)のL。疎なし。発達弱度の細塊状構造。細孔あり。鉄の雲状。マンガン斑の酸化沈積物を含む。ち密度20で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り湿。層界平坦漸変。
第4層	52~58cm	腐植を欠く、黄褐(5YR4/6)のSL。疎なし。連結状。孔隙なし。鉄の集積層。ち密度22で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.7。調査時の湿り湿。層界平坦明瞭。
第5層	58cm~	腐植を欠く、青灰(10GY4/1)のL。疎なし。連結状。孔隙なし。全層グライ層。ち密度23で中。PH(H <sub>2</sub> O)4.7。調査時の湿り潤。95cm以下湧水。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~11	4.8		2.1	37.4	42.2	18.3	CL			29.2	0.29	10	5.0
2	11~30	4.8		1.4	47.5	32.8	18.3	CL			12.4	0.12	10	2.1
3	30~52	5.0		0.7	51.8	33.6	13.9	L			-	-	-	-
4	52~58	4.1		2.1	69.6	21.3	7.0	SL			-	-	-	-
5	58~	3.2		0.9	63.7	25.3	10.1	L			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.1	4.3	2.5	26.3	14.3	2.9	0.2	54.4	9.02	8.0
2	5.4	4.3	2.5	27.9	16.4	4.8	0.7	58.8	8.76	5.9
3	5.4	4.4	2.5	27.4	16.0	4.9	0.8	58.4	7.96	8.7
4	5.7	4.5	2.5	21.9	12.9	4.4	0.7	58.9	6.62	5.2
5	4.7	3.7	13.8	20.7	9.2	3.5	0.9	44.4	4.86	2.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては、下舌辛統があるがグライ層の有無により、本統と区別される。

A-3 母材

非固結水成岩(泥) / 非固結水成岩(泥)

A-4 堆積様式

水積(河成) / 水積(河成)

B 地形

平坦

C 気候

年平均気温 5.4℃                      年降水量 1,257mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

過湿のおそれが多いため、排水を行うこと。酸度が進んでいるので酸性矯正を行なうこと。

F 分布

北海道阿寒郡阿寒町上阿寒、上舌辛

調査及び記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
上舌辛 - 上舌辛	III w II n

② 土壌区別説明

上舌辛統 - 上舌辛区



との境界波状明瞭である。

第2層は厚さ10～15cmで腐植含量1～3%、土性はLである。色は10YRで明度6～8、彩度1～2である。礫なし。連結状。孔隙なし。ち密度13～15で疎。PH(H<sub>2</sub>O)4.6前後。下層との境界波状明瞭である。Me-1a、2a層。

第3層は厚さ20～25cmでヨシ、ハンノキを主要構成植物とする分解不良の低位泥炭層。色は10YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。ち密度6～8で極疎、PH(H<sub>2</sub>O)4.0前後。下位に1cm前後の火山灰層がある。下層との境界平坦明瞭である。

第4層は厚さ50～60cmでヨシ、ハンノキを主要構成植物とする、極めて分解不良の低位泥炭層。色は10YRで明度4～6、彩度2～4である。礫なし。ち密度9～11で極疎～疎。PH(H<sub>2</sub>O)4.2前後。下層との境界波状明瞭である。

第5層は厚さ25～30cmで腐植含量2～4%、土性はSiLである。色は2.5Yで明度4～6、彩度3～5である。礫なし。連結状。孔隙なし。ち密度14～16で疎。PH(H<sub>2</sub>O)4.9前後。下層との境界平坦明瞭である。100cm内外で湧水、下位はグライ化している。Me-b層。

第6層は130cm以下で川砂層。

#### 代表的断面形態

(畑)

(所在地) 阿基町下徹別(試坑27)

第1層	0～15cm	泥炭、黒色(10YR2/1)のヨシを主要構成植物とする分解不良の低位泥炭層。礫なし。ち密度8で極疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.0。調査時の湿り湿。層界波状明瞭。
第2層	15～25cm	腐植あり、灰褐(10YR7/1)のL。礫なし。連結状。孔隙なし。ち密度14で疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.6。調査時の湿り湿。層界波状明瞭。Me-1a、2a層。
第3層	25～45cm	泥炭、黒色(10YR2/2)のヨシ、ハンノキを主要構成植物とする分解不良の低位泥炭層。礫なし。ち密度7で極疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.0。下位に1cm前後の火山灰層がある。調査時の湿り潤。層界平坦明瞭。
第4層	45～100cm	泥炭、黄褐(10YR5/3)のヨシ、ハンノキを主要構成植物とする、極めて分解不良の低位泥炭層。礫なし。ち密度10で極疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.2。調査時は潤。層界波状明瞭。
第5層	100～130cm	腐植を含む、黄褐(2.5Y5/4)のSiL。礫なし。連結状。孔隙なし。ち密度15で疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.9。下位はグライ化している。調査時は100cm内外から湧水。層界平坦明瞭。
第6層	130cm～	川砂層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	炭含量重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重量 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	12.2									30.41	2.22	14	52.3
2	15~25	1.1		1.0	53.2	43.1	2.7	L			09.4	0.05	19	1.6
3	25~45	9.9									30.12	1.82	16	51.8
4	45~100	14.8									42.95	2.80	15	73.9
5	100~130	2.2		2.9	49.5	45.4	2.2	SiL			1.68	0.07	24	2.9

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	基塩直換容量 me/100g	直 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	4.0	3.5	5.2	63.8	21.2	4.4	0.5		33.2	291	0.6
2	4.6	4.1	1.3	3.0	0.9	0.1	0.1		30.0	124	6.2
3	4.0	3.6	8.2	50.0	12.9	4.0	0.4		25.8	202	0.8
4	4.2	3.7	7.4	76.3	18.8	14.1	0.5		24.6	166	0.4
5	4.9	4.3	1.3	5.1	0.8	0.2	0.1		15.7	328	4.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては、東古辛統があるが地下水位の浅深、表土の土性が異り、本統と区別される。

A-3 母 材

低位泥炭(ヨシ、ハンノキ)ノ非固結火成岩(火山灰)

A-4 堆積様式

集積(ヨシ、ハンノキ)ノ風積(火山性)

B 地 形

平坦

C 気 候

年平均気温 5.4℃

年降水量 1,257mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は未墾地。

E 農業上の留意事項

強酸性のため石灰を増施して反応の矯正を行なうこと。明暗渠排水により地下水位の低下をはかること。

F 分 布

北海道阿寒郡阿寒町下徹別

調査及び記載責任者 上坂 晶司 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
徹 別 - 徹 別	IIIwmII t f a

② 土壌区別説明

徹別統 - 徹別区

示性分級式 (畑)

土	表	有	表	耕	(	土	(	自	(	養	(	障	(	災	(	傾	(	侵	(	耐	耐															
壤	効	土	土	土		透	保	固	置	有	微	酸	有	物	増	地	目	傾	人	侵	耐	耐														
生	土	土	土	土		然	層	分	換	"	"	効	害	埋	冠	す	斜	為																		
座	土	土	土	土		の	の	の	の	の	の	の	の	的	水	り	然	斜	為																	
力	の	の	の	の		風	乾	水	潤	肥	定	塩	の	石	舌	加	磷																			
可	の	層	の	の		の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	舌	加	磷																			
能	の	際	粘	土		土	乾	沃	状	壟	含	"	"	"	"	"	"																			
性	厚	含	難	土		着	乾	沃	状	壟	含	"	"	"	"	"																				
等	深	性	性	性		性	性	度	力	態	量	"	"	"	"	"																				
級	さ	量	易	湿		湿	度	度	否	否	否	"	"	"	"	"																				
	t	d	g	p		w	f	n						i	a	e																				
	III	II	II	II	I	I	I	I	-	1	2	III	1	1	3	III	2	1	1	3	1	4	I	1	1	II	2	1	I	I	-	-	I	1	1	2
簡略分級式	IIIwmII t f a																																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は徹別統に属する。表土の厚さは15cm内外で浅い。有効土層は1m以上で深い。表土は泥炭のため耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力ごく小、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は中、作土の養分状態は石灰中、苦土多、加里多、磷酸少、酸度ごく強で養分の壟否である。過湿のおそれが多く、また増冠水による災害を受ける危険性が多少ある。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は未墾地。

C 地力保全上の問題点

石灰、熔燐などの土壌改良資材の増施。明暗渠排水施設の整備を行なうこと。

D 分 布

北海道阿寒郡阿寒町下徹別



記載責任者 上坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

東 舌 辛 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ30~40cmで腐植含量15~18%。土性はCLであるが本層はヨシを主要構成植物とする分解良好な低位泥炭を含む。また本層にはAsの火山灰がわずかに混入しているのが認められる。色は10YRで明度1~3。彩度1~2である。礫なし。発達中度の塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度1.3~1.5で疎。PH(H<sub>2</sub>O)4.3前後。下層との境界波状明瞭である。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量6~8%。土性はSiLであるが本層は上位5cm内外はMe-1a層で色は10YRで明度4~6。彩度2~4である。礫なし。連結状。孔隙なし。ち密度9~1.1で極疎~疎。下層との境界平坦明瞭である。中位5cm内外はヨシを主要構成植物とする未分解の低位泥炭層。色は10YRで明度2~4。彩度1~3である。礫なし。ち密度4~6で極疎。下層との境界平坦明瞭である。下位5cm内外はMe-2a層で色は10YRで明度7~8。彩度1~3である。礫なし。ち密度1.0~1.2で極疎~疎。下層との境界平坦明瞭である。PH(H<sub>2</sub>O)4.7前後。沸水面は30cm内外である。

第3層は4.4cm以下でヨシを主要構成植物とする極めて未分解の低位泥炭層である。色は10YRで明度。彩度ともに1~3である。礫なし。ち密度3~5で極疎。

代表的断面形態

(未墾地)

(所在地) 阿寒町東舌辛(試坑3)

第1層	0~30cm	腐植に頗る富む。黒色(10YR2/1)のCL。ヨシを主要構成植物とする低位泥炭を含む。またAsの火山灰が認められる。礫なし。発達中度の塊状構造。細孔あり。ち密度1.4で疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.3。調査時の湿り潤。層界波状明瞭。
第2層	30~44cm	腐植に富む。SiL。上位5cmはMe-1a層で腐植を欠く。黄褐(10YR5/3)のSL(触感)。礫なし。連結状。孔隙なし。ち密度1.0で極疎。調査時は沸水。層界平坦明瞭。 中位5cmはヨシを主要構成植物とする未分解の低位泥炭層。灰褐(10YR3/2)。礫なし。ち密度5で極疎。調査時は沸水。層界平坦明瞭。 下位4cmはMe-2a層で腐植を欠く。灰褐(10YR8/2)のSL(触感)。礫なし。連結状。孔隙なし。ち密度1.1で疎。調査時は沸水。

		層界平坦明瞭。PH (H <sub>2</sub> O) 4.7。湧水面は30cm。
第3層	44cm~	泥炭、黒色(10YR2/2)のヨシを主要構成植物とする未分解の低位泥炭層。ち密度3~5で極疎、調査時は湧水。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	炭含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~30	7.5		2.5	34.1	41.9	21.5	CL			9.63	0.74	13	16.6
2	30~44	2.4		2.9	46.3	46.6	4.2	SiL			4.41	0.32	14	7.6

層位	PH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	直 換 性 塩 基 me/100g				石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷 酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	4.3	3.8	7.5	38.3	9.3	3.7	0.3		24.3	120.2	1.9
2	4.7	4.0	2.5	11.7	2.5	1.5	0.1		21.4	16.8	7.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては徹別統があるが、地下水位の浅深、表土の土性が異りそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩(火山灰)ノ低位泥炭(ヨシ)

A-4 堆積様式

風積(火山性)ノ集積(ヨシ)

B 地 形

平坦

C 気 候

年平均気温 5.4℃

年降水量 1,257mm

D 植生及び利用状況

未墾地で一部は草地になっている。

E 農業上の留意事項

排水を行ない地下水位の低下をはかること。石灰、燐などの増施を行ない反応を矯正すること。

F 分 布

北海道阿寒郡阿寒町東古辛、下仁々志別、中阿寒、中央、中徹別

調査及び記載責任者 上坂晶司(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
東 舌 辛 - 東 舌 辛	IV w l l n a l l f

② 土壌区別説明

東 舌 辛 統 - 東 舌 辛 区

示 性 分 級 式 ( 畑 )

土 壤	表 土	表 土	表 土	透 保 濕	保 固 土	直 層 分 換	有 效 養 分	障 礙 物	災 害	傾 倒	侵 蝕	耐 力																							
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土 層 厚 深 さ	土 層 厚 深 さ	土 層 厚 深 さ	の 風 乾 湿 性	の 水 潤 肥 力 度	の 定 塩 基 灰 土 量	の 石 苦 加 燐 酸 度	の 質 害 障 礙 物	の 冠 水 的 害	の 傾 倒 危 險 性	の 傾 倒 危 險 性	の 耐 力 性																							
t d g p	w	f	n	i	a	s	e																												
IV	I	I	I	2	1	1	IV	1	1	3	II	2	2	3	III	3	1	2	3	1	4	I	1	1	III	3	1	I	1	-	-	I	1	1	1
簡略分級式		IV w l l n a l l f																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は東舌辛統に属する。表土の厚さは30cm内外で厚い。有効土層は1m以上で深い。表土は粘質であるが耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は中。作土の養分状態は石灰少、苦土多、加里中、燐酸小、酸度ごく強で養分の豊富少である。過湿のおそれが甚だしく、また増冠水の災害を受ける危険性がかなり大きい。

B 植生及び利用状況

未墾地で一部は草地になっている。

C 地力保全上の問題点

明暗渠などの排水施設の整備、河川改修。石灰、燐の増施。

D 分 布

北海道阿寒郡阿寒町東舌辛、下仁々志別、中阿寒、中央、中徹別

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

### 3 保全対策地区区分及び説明

#### 1) 保全対策地区の設定

(畑)

保全対策地区名	該当土壌区名	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
仁々志別	共和-共和 仁々志別-仁々志別 下徹別-下徹別 紀ノ丘-紀ノ丘 阿寒-阿寒 西徹別-西徹別 大正-大正 西阿寒-西阿寒	1,295	火山灰土壌で全般的に腐植層は厚いが、作土の厚さが浅くかつ塩基が不足している。	土壌改良資材施用 漸次深耕
中阿寒	上徹別-上徹別 中徹別-中徹別 下布伏内-下布伏内 中阿寒-中阿寒 下舌辛-下舌辛 上舌辛-上舌辛	1,586	沖積地帯で全般的に腐植層は浅い。	土壌改良資材施用 有機物の施用 河川改修
徹別	徹別-徹別 東舌辛-東舌辛	16	泥炭地帯 排水不良地	明暗渠排水 河川改修 土壌改良資材施用

#### 2) 保全対策地区説明

<仁々志別保全対策区>

##### (1) 分布

市町村名	面積(ha)	該当土壌区
阿寒郡阿寒町	1,295	共和、仁々志別、下徹別、紀ノ丘、阿寒、西徹別、大正、西阿寒

##### (2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は火山性土壌地域で、一般に腐植層は厚いが作土層は浅くかつ塩基、磷酸に欠乏している地域を取りまとめたものである。従つて耕起時漸次深耕をはかり、併せて石灰、熔燐などの土壌改良資材を施用し地力の増進をはかることが必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量等	備 考
土壌改良資材 施 用	共和、仁々志別、下徹別 紀ノ丘、阿寒、西徹別、 大正、西阿寒	石灰、燐酸、 苦土、加里 等の増施	炭カル、熔燐の施用、	
深 耕	( 1, 2 9 5 )	漸次深耕	指導	

<中阿寒保全対策区>

(1) 分 布

市 町 村 名	面積 (ha)	該 当 土 壤 区
阿寒郡阿寒町	1, 5 8 6	上徹別、中徹別、下布伏内、中阿寒、下古辛、上古辛

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は沖積土壌地域で、一般に腐植層は浅くかつ、塩基、燐酸に欠乏している地域を取りまとめたものである。従つて有機物を施用し併せて石灰、熔燐などの土壌改良資材を施用し地力の増進をはかることが必要である。また豪雨により増冠水の災害を受けやすいので河川改修も必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量等	備 考
土壌改良資材 施 用	上徹別、中徹別、下布 伏内、中阿寒、下古辛、 上古辛  ( 1, 5 8 6 )	石灰、燐酸、 苦土、加里 等の増施	炭カル、熔燐の施用	
堆肥施用		完全混和	2～3 t 10 a	
排 水		河川改修 明暗渠排水	工事費の助成	

<徹別保全対策区>

(1) 分 布

市 町 村 名	面積 (ha)	該 当 土 壤 区
阿寒郡阿寒町	1 6	徹別、東古辛

(2) 地力保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は泥炭土壌地域で、大部分は未開発地域でかなり湿生を呈している。まず河川改修などの基幹排水施設の整備を行ない、その後明暗渠排水を行ない、併せて土壌改良資材の施用をはかることが必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量等	備 考
排 水	徹別、東古辛  ( 1 6 )	河川改修 明暗渠排水	柔焼土管、塩化ビニール パイプ等工事費の助成。	
土壌改良資 材 施 用		石灰、燐酸 等を施用	灰カル、熔磷の施用	

2) 土壤分析成績

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性												
					礫(風乾物中) %	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	における 100cc			
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シルト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc
仁々志別	共和	76	1	0 ~ 15		4.2	10.9	3.2	41.9	45.1	46.0	8.9	SiL				
			2	15 ~ 21		7.6	18.9	7.6	35.3	42.9	38.6	18.5	CL				
			3	21 ~ 27		7.6	13.3	5.0	42.6	47.6	43.1	9.3	L				
			4	27 ~ 35		7.3	8.3	2.8	43.2	46.0	48.3	5.7	SiL				
			5	35 ~ 44		10.1	19.7	10.3	32.6	42.9	45.2	11.9	SiL				
			6	44 ~ 52		11.8	8.4	18.3	47.3	65.5	28.6	5.9	SL				
			7	52 ~ 66		9.4	—	23.1	54.0	77.1	22.2	0.7	SL				
			8	66 ~		5.5	—	39.7	40.4	80.1	17.8	2.1	SL				
	仁々志別	87	1	0 ~ 18		4.4	12.2	5.2	37.0	42.2	45.6	12.2	SiL				
			2	18 ~ 24		8.0	13.2	5.2	33.3	38.5	55.6	5.9	SiL				
			3	24 ~ 31		7.7	8.3	5.5	45.5	51.0	44.1	4.9	L				
			4	31 ~ 45		9.1	10.2	12.2	37.1	49.3	40.5	10.2	L				
			5	45 ~ 60		10.0	7.2	16.4	53.1	69.5	29.1	1.4	SL				
			6	60 ~ 75		9.7	—	18.6	70.7	89.3	9.3	1.4	S				
			7	75 ~		8.9	—	7.5	70.4	77.9	21.0	1.1	SL				
	仁々志別	26	1	0 ~ 22		4.9	11.4	4.9	45.2	50.1	42.4	7.5	L				
			2	22 ~ 32		1.7	2.9	2.3	49.9	52.2	43.8	4.0	L				
			3	32 ~ 43		9.8	19.0	7.5	36.9	44.4	40.6	15.0	CL				
			4	43 ~ 50		6.5	6.2	4.9	48.9	53.8	43.4	2.8	L				
			5	50 ~ 68		11.3	14.2	23.3	34.1	57.4	33.4	9.2	L				
			6	68 ~ 80		11.4	8.5	32.4	38.5	70.9	27.6	1.5	SL				
	仁々志別	38	1	0 ~ 10		5.2	12.1	5.0	44.7	49.7	41.2	9.1	L				
			2	10 ~ 15		2.2	4.8	3.2	46.3	49.5	46.5	4.0	SiL				
			3	15 ~ 34		8.3	18.2	2.8	47.0	49.8	35.3	14.9	L				
			4	34 ~ 43		6.1	6.5	2.7	61.8	64.5	35.0	0.5	L				
			5	45 ~ 57		12.8	20.1	3.8	39.7	43.5	36.5	20.0	CL				
			6	57 ~ 80		12.2	10.1	3.7	63.0	66.7	26.7	6.6	SL				
			7	80 ~		8.4	—	5.1	29.6	34.7	34.1	31.2	LiC				
仁々志別	阿寒	13	1	0 ~ 13		6.7	13.0	2.9	42.7	45.6	40.5	13.9	L				
			2	13 ~ 18		8.1	7.4	2.9	46.7	49.6	42.6	7.8	L				
			3	18 ~ 25		11.6	11.1	8.7	41.6	50.3	40.4	9.3	L				
			4	25 ~ 44		10.7	5.7	11.7	69.0	80.7	17.1	2.2	SL				
			5	44 ~ 72		9.1	—	12.4	63.8	76.2	17.9	5.9	SL				
仁々志別	西徹別	50	1	0 ~ 20		5.7	14.6	3.1	43.6	46.7	43.3	10.0	L				
			2	20 ~ 30		4.9	7.6	1.8	46.5	48.3	47.9	3.8	SiL				
			3	30 ~ 45		10.8	19.2	6.3	21.7	28.0	36.9	35.1	LiC				
			4	45 ~ 65		7.8	9.1	6.6	37.2	43.5	40.3	15.9	CL				
			5	65 ~		5.7	—	4.0	36.9	40.9	36.3	22.8	CL				

容中 孔隙率 %	化 学 性												
	PH		置 换 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 机 物			盐 直 换 谷 基 量 me/100g	直 换 性 盐 基 100g 中			石 灰 饱 和 度 %	磷 酸 吸 收 系 数	有 效 总 磷 酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO mg	MgO mg	K <sub>2</sub> O mg			
	5.2	4.5	1.3	6.32	0.51	12	23.0	239	40	22	37.0	778	2.4
	5.1	4.4	1.3	11.00	0.75	15	42.2	271	63	19	23.0	2148	0.5
	5.4	4.6	1.3	7.74	0.49	15	31.4	176	24	16	20.1	2122	0.5
	5.5	4.5	1.3	48.2	0.34	14	22.7	130	20	8	20.3	1838	0.5
	5.2	4.4	2.5	11.47	0.76	15	61.6	324	56	20	18.7	2404	0.4
	5.0	4.4	1.3	48.5	0.38	13	27.2	104	35	13	13.4	2342	0.2
	5.0	4.8	1.3	—	—	—	19.9	111	4	8	20.1	2246	0.4
	4.9	5.0	0.6	—	—	—	10.6	53	0	11	17.9	1706	0.5
	5.2	4.8	1.3	7.11	0.58	12	28.2	469	36	30	59.2	1114	10.7
	5.1	4.5	1.3	7.66	0.58	13	35.9	271	14	26	27.0	2016	0.5
	4.9	4.6	0.6	4.81	0.37	13	19.5	105	8	13	19.0	1998	0.5
	4.9	4.6	1.3	5.90	0.46	13	30.8	163	16	26	18.8	2210	0.6
	5.1	5.0	1.3	4.19	0.34	12	24.0	169	7	35	25.0	2290	0.6
	5.4	5.2	1.3	—	—	—	14.4	132	17	25	32.6	1972	0.6
	5.0	5.0	0.6	—	—	—	17.6	64	19	27	13.1	2042	0.5
	5.1	4.5	0.6	6.44	0.46	14	24.2	428	26	33	63.2	920	2.2
	5.3	4.8	0.6	1.71	0.11	15	6.5	125	8	28	69.2	388	3.7
	5.0	4.3	1.3	11.06	0.59	19	44.4	336	22	11	27.0	2218	0.4
	5.3	4.8	0.6	3.62	0.24	15	12.2	54	9	12	15.6	1574	0.2
	5.0	4.5	1.3	8.24	0.50	16	34.9	130	34	33	13.2	2290	0.2
	4.8	4.5	1.3	4.95	0.33	15	19.2	40	22	21	7.3	2210	tr
	5.0	4.4	0.6	7.02	0.55	13	25.3	320	26	16	45.1	906	3.1
	5.2	4.7	0.6	2.77	0.18	15	10.2	151	20	4	52.9	494	2.6
	5.1	4.5	1.3	10.55	0.64	16	42.5	379	53	10	31.8	2060	0.6
	5.1	4.6	0.6	3.77	0.26	14	13.4	60	26	6	15.7	1538	0.4
	5.0	4.3	3.8	11.71	0.64	18	54.4	270	58	13	17.7	2218	0.2
	5.0	4.4	1.9	5.85	0.31	19	34.2	138	66	24	14.3	2078	0.4
	5.2	4.2	1.9	—	—	—	21.8	251	140	67	41.3	1138	0.5
	5.0	4.4	1.3	7.58	0.49	15	27.9	204	39	18	26.2	1564	1.1
	5.3	4.7	1.3	4.32	0.29	15	15.7	85	7	12	19.1	1776	0.6
	5.2	4.5	1.3	6.46	0.43	15	31.7	117	29	30	13.3	2298	0.8
	5.4	4.8	1.3	3.29	0.24	14	22.4	59	15	36	9.4	2162	0.6
	6.0	5.3	0.6	—	—	—	14.3	88	0	21	21.7	1724	0.8
	4.9	4.2	3.1	8.51	0.64	13	29.7	254	18	14	30.6	1352	3.8
	5.1	4.5	1.3	4.43	0.33	13	16.2	94	9	6	21.0	1600	1.0
	4.8	4.1	6.3	11.16	1.93	6	57.6	308	35	49	19.4	2218	1.1
	4.8	4.0	10.0	5.31	0.47	11	30.4	118	29	16	13.8	2060	1.0
	4.8	4.0	6.3	—	—	—	22.3	309	116	15	49.3	896	0.7



保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	埋 学 性											
					礫 (風 乾物 中) w %	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	に お け る		
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc
仁々 志 別	大 正	31	1	0~15		6.4	13.6	4.2	44.5	48.7	43.3	8.0	L			
			2	15~23		10.6	14.0	4.9	42.2	45.3	40.4	12.5	L			
			3	23~30		8.5	8.9	3.5	45.3	48.8	45.3	5.9	SiL			
			4	30~50		10.2	10.2	8.1	4.22	50.3	40.0	10.7	L			
	西 阿 寒	12	1	0~23		6.9	13.9	5.0	44.8	49.8	37.1	13.1	L			
			2	23~39		10.1	8.9	11.1	5.55	66.6	28.5	4.9	SL			
3			39~		8.0	-	12.1	5.60	68.1	24.0	7.9	SL				
中 阿 寒	上 徹 別	62	1	0~25		6.1	17.0	5.1	40.5	45.6	42.0	12.4	L			
			2	25~40		6.4	10.3	15.5	38.7	54.2	34.9	10.9	L			
			3	40~50		3.8	2.7	36.5	45.6	8.21	15.1	2.8	SL			
			4	50~66		6.9	8.2	8.7	35.3	44.0	33.2	22.8	LiC			
			5	66~75		6.1	5.1	8.9	34.5	43.4	34.8	21.8	CL			
			6	75~		3.9	0.6	20.6	64.7	85.3	11.2	3.5	LS			
	中 徹 別	48	1	0~15		4.6	11.1	3.5	45.9	49.4	38.7	11.9	L			
			2	15~30		8.8	12.1	10.9	49.8	60.7	20.9	18.4	CL			
			3	30~		4.2	-	1.7	72.6	74.3	1.98	5.9	SL			
	下 布 伏 内	6	1	0~15		2.7	2.0	15.0	67.1	82.1	11.7	6.2	SL			
			2	15~32		1.9	-	26.1	70.4	96.5	3.5	0.0	S			
			3	32~60		3.4	1.4	1.4	75.8	77.2	1.65	6.3	SL			
	中 阿 寒	5	1	0~28		4.7	4.8	1.4	34.5	35.9	43.7	20.4	CL			
			2	28~		3.5	-	1.4	80.6	82.0	15.0	3.0	SL			
	下 舌 辛	1	1	0~16		4.4	4.4	8.0	41.5	49.5	35.9	14.6	L			
			2	16~22		1.5	-	1.2	52.0	53.2	43.7	3.1	L			
			3	22~25		1.0	-	4.5	44.8	49.3	48.4	2.3	SiL			
			4	25~37		3.9	-	0.7	51.7	52.4	35.0	12.6	L			
			5	37~65		4.6	1.7	1.0	35.2	36.2	48.4	15.4	SiCL			
			6	65~90		3.4	-	4.5	71.7	76.2	17.8	6.0	SL			
	上 舌 辛	4	1	0~11		4.8	5.0	2.1	37.4	39.5	42.2	18.3	CL			
			2	11~30		4.8	2.1	1.4	47.5	48.9	32.8	18.3	CL			
			3	30~52		5.0	-	0.7	51.8	52.5	33.6	13.9	L			
			4	52~58		4.1	-	2.1	69.6	71.7	21.3	7.0	SL			
5			58~		3.2	-	0.9	63.7	64.6	25.3	10.1	L				
徹 別	27	1	0~15		12.2	52.3	-	-	-	-	-	-	-			
		2	15~25		1.1	1.6	1.0	53.2	54.2	43.1	2.7	L				
		3	25~45		9.9	51.8	-	-	-	-	-	-	-			
		4	45~100		14.8	73.9	-	-	-	-	-	-	-			
		5	100~130		2.2	2.9	2.9	49.5	52.4	45.4	2.2	SiL				
別	東 豆 辛	3	1	0~30		7.5	16.6	2.5	34.1	36.6	41.9	21.5	CL			
			2	30~44		2.4	7.6	2.9	46.3	49.2	46.6	4.2	SiL			

容中 孔隙 率 %	化 学 性												
	P H		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩置 換 容 基 量 me/100g	置換性塩基 100g中			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有 效 態 磷 酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO mg	MgO mg	K <sub>2</sub> O mg			
	4.7	4.2	2.5	7.89	0.46	17	27.8	235	16	25	30.2	1,256	1.5
	5.1	4.5	1.3	8.13	1.58	14	42.1	405	6	5	34.4	2,166	0.5
	5.3	4.7	1.3	5.15	0.35	15	18.6	104	7	8	19.9	1,794	0.6
	5.1	4.5	0.6	5.92	0.41	14	30.7	138	32	7	16.0	2,122	0.6
	5.5	4.4	1.3	8.08	0.52	15	27.9	149	20	7	19.0	1,786	1.1
	5.3	4.6	1.3	5.00	0.35	14	23.4	50	18	18	7.7	2,280	0.3
	5.4	4.6	0.6	—	—	—	15.2	85	18	16	19.7	1,603	0.8
	5.2	4.5	1.3	9.86	1.79	5	32.0	406	39	10	45.3	1,432	4.3
	5.2	4.4	2.5	5.96	0.49	12	25.2	123	45	2.9	17.5	1,812	0.7
	5.0	4.2	1.9	1.57	0.11	14	11.4	120	3	4.3	37.7	972	1.2
	5.2	4.2	3.8	4.79	0.37	13	37.6	40.4	62	14.1	38.3	1,458	0.6
	5.0	4.1	5.0	2.98	0.23	13	34.1	40.6	75	9.0	42.5	1,264	0.6
	5.2	4.2	6.3	0.36	0.02	18	17.7	29.5	7.1	3.9	59.3	624	1.4
	5.0	4.5	1.3	6.43	0.56	12	24.7	360	8	8	51.8	1,022	5.0
	5.0	4.3	2.5	7.04	0.64	11	39.5	38.1	18	9	34.4	1,704	0.9
	5.0	4.1	6.3	—	—	—	19.4	23.2	2.9	1.6	42.8	928	1.5
	4.9	4.0	5.0	1.18	0.12	10	15.0	27.1	1.7	2.2	64.7	344	15.0
	5.7	4.4	2.5	—	—	—	9.6	19.4	2.2	2.1	71.9	132	13.3
	5.5	4.5	2.5	0.81	0.07	12	18.6	37.2	5.5	3.3	71.0	478	14.0
	5.2	4.3	2.5	2.79	0.29	10	29.4	54.6	5.2	4.3	66.3	584	19.0
	5.7	4.5	1.3	—	—	—	18.6	38.9	5.0	2.1	74.7	522	11.7
	4.7	4.0	2.5	2.55	0.25	10	23.0	31.1	5.5	5.2	48.3	646	4.5
	5.0	4.3	1.3	—	—	—	4.1	4.0	1.1	7	34.2	230	6.4
	5.1	4.4	1.3	—	—	—	5.1	4.0	1.9	6	27.5	174	16.8
	5.0	4.0	5.0	—	—	—	21.4	32.2	8.3	1.4	53.7	486	16.2
	5.1	4.0	5.0	0.99	0.09	11	24.1	38.8	9.3	1.3	57.3	610	10.4
	5.4	4.0	2.5	—	—	—	17.2	29.0	8.5	1.3	59.9	248	15.6
	5.1	4.3	2.5	2.92	0.29	10	26.3	40.0	5.9	1.0	54.4	902	8.0
	5.4	4.3	2.5	1.24	0.12	10	27.9	45.9	9.7	3.2	58.8	876	5.9
	5.4	4.4	2.5	—	—	—	27.4	44.9	9.9	3.6	58.4	796	8.7
	5.7	4.5	2.5	—	—	—	21.9	36.3	8.8	3.5	58.9	662	5.2
	4.7	3.7	13.8	—	—	—	20.7	25.8	7.0	4.0	44.4	486	2.6
	4.0	3.5	5.2	30.41	2.22	14	63.8	59.4	9.0	2.3	33.2	291	0.6
	4.6	4.1	1.3	0.94	0.05	19	3.0	2.6	2	5	30.0	124	6.2
	4.0	3.6	8.2	30.12	1.82	16	50.0	36.1	8.1	1.8	25.8	202	0.8
	4.2	3.7	7.4	42.95	2.80	15	76.3	52.7	28.4	2.5	24.6	166	0.4
	4.9	4.3	1.3	1.68	0.07	24	5.1	2.3	4	3	15.7	328	4.6
	4.3	3.8	7.5	9.63	0.74	13	38.3	29.6	7.5	1.4	24.3	1,202	1.9
	4.7	4.0	2.5	4.41	0.32	14	11.7	6.9	3.0	7	21.4	168	7.0